明治三十四年五月十五日發行（明治二十年十一月本會創立）
第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日）　毎月一回十五日發行
内務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百参拾八號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百三十八號 目次



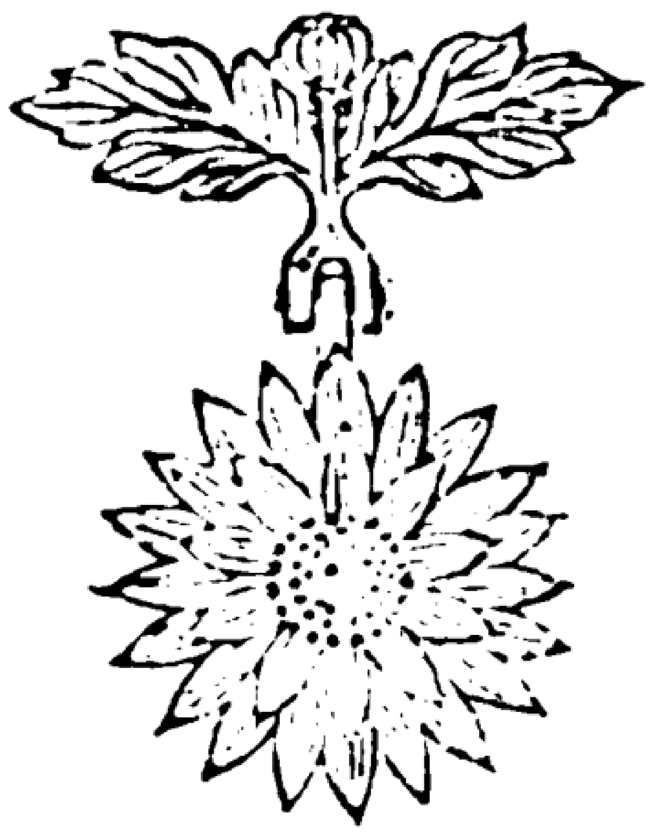
地方會員及賛成員諸氏へ謹告

本會は會員及賛成員諸氏の御盡力により毎月多數の會員を得るに至り誠に感謝に不堪候就ては雜誌部數も月々多數增刊致し候義に付隨て費用も相嵩み候間今後入會者御紹介の際は乍御手數三ヶ月以上の會費前金及び相當徽章代を添へ御申込み相成候樣入會の方々へ御傳へ被下度此段謹告仕候也

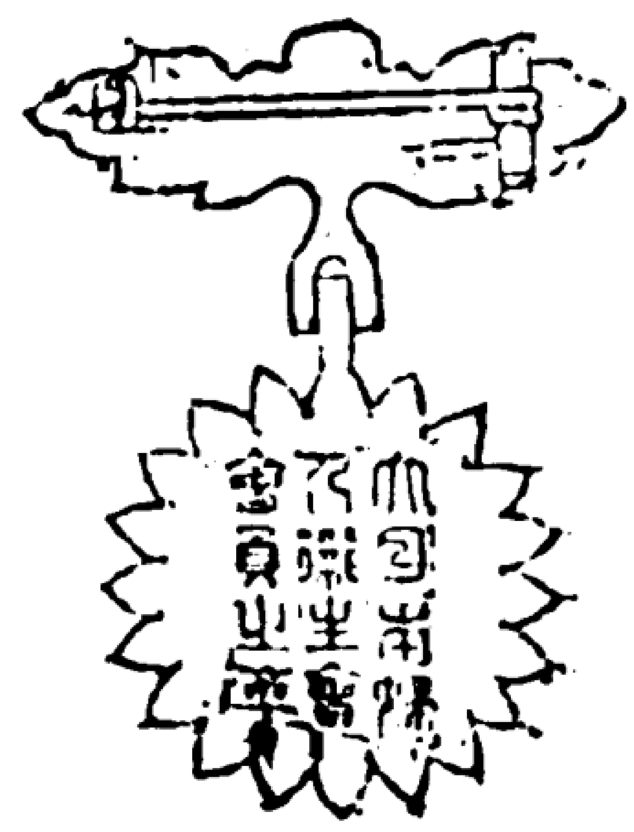
追而　會費御未納の御方は至急御送付相煩し候也

明治三十四年五月

私立大日本婦人衛生會



實物は此圖より小也



徽章調製濟特別廣告

一今般黄菊白菊の花を以て本會々員の徽章に相定め候事は前號紙上に於て御報申上置候通上部には菊の蕾と葉を以てし下部には菊の花を垂下す（地はつや消し銀花瓣磨き出し中心金色）從來の會員分は粗末なるめの故隨て消失し易く且未だ差上げざる向も不少候間此際一般に改めて御交付致し度候也

一右徽章は襟留兼用に製せられ以て集會の際は勿論成べく平素御用ゐ被下度左すれば自然本會の廣く江湖に知れ渡り普及の一端と可相成候此徽章は其筋の内覧に供へ候間菊花御紋章に對する懸念毫も無之爲念此段申添候也

一右徽章は金銀の二種に分ち通常會員章（第一號銀メッキ製一個拾五錢）（第二號正銀製一個五拾錢）終身會員特別會員章（銀臺金章壹圓）にて御交付申上候

●●●●●目下徽章調製濟に付地方會員若しくは東京府下郡部の會員方は相當徽章代及び郵送費七錢を添へ小爲替にて至急御申越を乞ふ但郵便切手は一割增に相願候

◎尚新たに御入會の地方及東京郡部の方にて三ケ月以上の會費と徽章代を添へ御申込有之度候●尚徽章出挑の際は第二回の調製可致候間多少時日を要すべく候間此段御了承有之度候也

明治三十四年五月

私立大日本婦人衞生會

無砂白米販賣 むすな

●本店は砂搗白米を改良し一般の福利を增進せんが爲め開業せり

●本店は明治三十年以來きづき無砂白米を販賣せり

●きづき無砂白米の一般砂搗白米に卓絶したる特色は世既に定評あり

●衛生と經濟に注意せらるゝの諸君は無砂白米を試みられん事を願ます

●無砂白米には上等の生搗手洗ぬかを添へて差上ます

●無砂白米は市内に限り迅速配達致します

方今東京市内に於て販賣しつゝある白米は概ね砂搗白米にして衛生經濟の發達せる今日到底輕々しく看過すべき者にあらず既に農商務省は東京白米商同業組合に之が改良を命じたるも一般白米商に於て在來使用せる米搗機械の不完全なると一は無砂白米に比して格外の利益ある爲め當業者は遲々として未だ改良の運びに至らず然れども此際獨り供給者而已に倚頼せず需用者諸君に於ても進て之が改良を促し砂搗白米を全滅する事を得ば實に衛生經濟の二途に於ける完璧と言べし

(東京市神田區美土代町一丁目十八番地)

女子美術學校設立の趣旨書

夫れ一國の美術は其國國民の文明知識信仰趣味の程度を説明するに足るものなれば其の進歩發達が一國文明の進歩發達に相伴隨するや論なく其の製作品の如何が國風の涵成に尠なからぬ影響を與ふるやいふ迄もなし

我が日本は古往より美術國と稱せられ今日に於ても漸次進歩の域に向はんとす而して今後に於て時勢の推移と文明の増進と共に倍美術の發達進歩に努めざる可らざるや多言を須ゐずして明なり然りと雖も今日我國に於ける美術教育の性體如何を察するに其の範圍は狹く男子にのみ限られたるの觀を呈し女子の美術教育に至りては未だ殆んど顧みられざるの風なきに非らず是れ誠に慨すべきことに非ずや

夫れ女子には自ら美術的の性情を備ふるものあり素より女子の美術的技能を以て男子に優れりとするものに非らずと雖とも女子には女子特得の技能を有するは盖し否む可らず故に女子に向つて美術教育を授け其の特長を發揮せしめ其の特能を完うせしむるは今日の急務に非らずや

吾人同志聊か茲に見る所あり今回新に女子美術學校を設立し女子美術教育の不足を補はんと期す而して其の目的とする所は先つ女子に向つて美術教育を施し其の學習せし所を以て女子の工藝手工其他日常の業務上に適應せしめ因て以て女子が自活の道を講じ得るに資し從て女子の社會に於ける位置を漸次高進せしめ次には女子師範學校其の他各種の女學校に於ける美術教師を養成して今日の不足に應せしめんとするにあり大方の君子吾人の微志のある所を諒して贊助を與へらるれば幸甚しといふべし

校務監督　東京美術學校長　從六位勳六等　久保田鼎

職員　校長　藤田文藏　學監　谷口鐵太郎　幹事　田中晋　舍監　横井たま

教師　東京美術學校講師從五位　岩村透○磯村吉雄○女子高等師範學校助教諭　波多野さく○大岩道識○東京美術學校教授從六位　川端玉章○東京美術學校教授從七位　川之邊一朝○東京美術學校講師　川崎千虎○川島原兵衛○横井たま○谷口鐵太郎○谷紀三郎○田中晋○美術學校講師ドクトル、オフ、ヒロソヒー　巖原惟郎○女子高等師範學校助教諭　谷田部しゆん○山崎ラウラー○美術學校教授從七位　藤田文藏○伏見藤三郎○木原とき○美術學校助教授　島田友春（イロハ順）

◉規則書御入用の方は貳錢切手封入東京市本郷區弓町二丁目一番地女子美術學校宛申込まるべし

明治三十四年四月

東京市本郷區弓町二丁目一番地

女子美術學校

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本總會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス

第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク
會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス
各役員ノ任期ハ一ケ年トス

第參條 毎月壹回（第壹日曜日）講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス

第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ
本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスル時ハ其旨事務所ニ届出ヅベシ

第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ
會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二ケ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ

第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス

第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ

第八條 服装ハ精誠質素ナルヲ要ス
上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ

第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

宇都宮支會
事務所宇都宮市西塙田町淺川方

警察醫長山根正次君考案女子改良服



講演

洋行土産

警察醫長 醫學士　山根正次君演説
佃　速記事務所員速記

私は山根正次でございます、過日濱尾さんから何か洋行して歸つて來たのだから御土産を呉れと云ふことでありましたが何分是と思ふ御土産もありませぬので困つて居りました、實は今日の演題が「洋行みやげ」と云ふのでありますから、好い御土産が追々出て來やうと思ひます、どうか暫くの間御待ちを願ひます、

私が今般洋行をしましたに付ては、政府から、萬國衛生會に出るやうに、萬國の醫會に出るやうにと云ふことでありまして、又私立の依頼では、體育會に出るやうにと云ふことでありましたから、色々のことを聞いて來たのであります、そんな御話は六ケ敷うございますから、極く皆さんにお分り易い日本に於ける評判記を序でに御話をしやうと思ひます、今般歐羅巴へ參りまして、最も私共が此低い鼻が高くなつたのはどう云ふ譯であつたかと云ふと、丁度六月の十三日に上海を出帆致しまして、香港の方へ向ひまする時に北京に在る日本の公使館書記生の杉山彬君が慘殺されたと云ふことを聽きまして、是は何んでも大變なとがあると思ふて、船中で大層氣遣つて居りました、さうして香港へ參りますと、もう獨逸の公使が殺された、日本からは兵隊を送つたの軍艦を何艘送つたのと云ふ噂がありました、途中此報を聞いたのでありますから、私共は大變に—獨り日本人ばかりではない、一般が心配致して居り

まして、獨逸、佛蘭西、和蘭、其他の國の人が船に乘合はせましたので、皆一同が氣遣かつて居りましたのであります、新嘉坡に參りましたけれども、樣子が能く分りませぬ、日本からどの位ゐ兵隊が出たか、事實が一向分らなかつた、然るにこの船がコロンボと云ふ島に着きまして、コロンボと云ふ所はお釋迦さんの御寺のある所でありますが、其處へ着きますると電報〲と云ふて船へ賣に來ました、其電報を見まするど、英語で書いてあつたから急には讀めないー私は獨逸語は讀めるが英語は不得手の方でありますから、讀むで貰ひますと、日本の軍隊が太沽の臺場をやつ付けた、日本軍が先登第一で占領した、さうして一萬以上の兵隊を繰出したと云ふやうなことがあつて、評判が高かつたのであります、それから船が追々進んで參りまして、佛蘭西の方へ參りますと云ふと、中々今度は評判が一層好い、それて北京にある日本人も其他の外國人も、義和團匪の爲めに殺されて、各國の公使は殘らす虐殺されたさうであると云ふやうな、其顛末が列べて書いてあつたので、其時は餘程氣遣かつて居りましたが、又後から大變に評判の好い電報が來ました、それが皆新聞に出ました、其れを見まするど日本の騎兵が非常に働いて、支那の軍隊の中に飛込んでチャン〲を斬つたことや、勝利のことを引續いて電報で知らせて來ましたので、さう云ふことから日本の名譽と云ふものは非常に揚りました、今申す如く私のやうな平つたい鼻が、俄かに高くなつて、西洋人ツッチ退けと云ふやうに、なつた、(笑聲起る)私共は非常に喜んだ、外へ出ても少しも步けない、鼻が閊へて……日本人は大層强いさうだと謂はれると、イヤさう云ふ譯ではありませぬと言つて居たが、腹の中では實に嬉しかつたのであります、さう云ふやう

なことを聞きます中に、追々戰爭が續きまして、日本の赤十字社の船が醫師や看護婦を乘せて、外國の負傷者を乘せて、─無論日本の負傷者も乘せて、さうして廣島に連れて歸つて手當を篤くしてやつたと云ふことである、日本は萬事のことが行屆いて居ると云ふ評判が立つた、それまでは歐羅巴では日本に赤十字社があるかないか人が知つて居らぬ、萬國博覽會などへ往ッて見ますと、日本の赤十字社の物品の地圖があるのみで日の丸の旗が立て居りましたが私其日の丸より赤面した他の國の赤十字社の出品は看護婦が白い着物を着て負傷者を繃帶して、側に醫師が療治をして居る所などが出て居つたが、中々よく屆ておりました隨分其時には平つたい鼻が折角高くなつたのが、又奥へ引込んで仕舞つたやうに思ひました(笑聲起る)然るに前にも申しました如く、日本の赤十字社の病院船が多くの負傷者に非常に親切で、能く看護をして呉れる、其看護婦の中には高貴の婦人方が交つて居られると云ふやうなことが新聞に出て居まして、日本人は格別慈惠の心が深いと云ふやうな好き評判を得ました、それから後に又評判の好かッたことはどう云ふことかと申しますと、京都の醫學會の會長の齋藤仙也君と云ふ人が、日本から來た手紙を譯しました、其事は何んであるかと申すと、私は獨逸の新聞で見ましたが、日本の赤十字社の成立がズッと書いてある、佐野さんが御心配になつて、則ち　皇后陛下の非常に御盡力あそばされたことから、皆様方が此赤十字に力を盡されて居ることなどが詳しく書いてありましたのみならす京都からして最も慈惠深き赤十字社員、最も博愛の情に厚き奥様方が澤山お扇子を持つて廣島の病院へ御見舞に御出でなされて、其時には外國の水兵なり兵隊なりを一々御見舞なされて、其れを配つて御歩

きなされたことに付て、大變に褒めてありました、日本人が發行しまする「東亞」と云ふ新聞がありますそれは玉井喜作と申して西比利亞を一文無しで旅行した人で、其人が發行して居る新聞にもありましたが——さう云ふやうな結果が非常に日本の名譽を揚げたので御座います、のみならず、日本の軍隊の大層強いと申すことを、賞讃されて居つたのであります、唯だ私が殘念でありましたのは、印度から出た英吉利の兵隊、それから露西亞、墺太利、佛蘭西、亞米利加、獨逸の兵隊、是等が皆勢揃をして歩く時には、何時でも日本人はチイさくして、外の兵隊は大きい、アンなに小さい人間が軍さに強いだらうと云ふやうな感覺を皆外國人に有たせたことで御座いますけれども日本人は強いと云ふので、さア評判が好い、日本人は身體は小さいが戰には強いと云ふ評判になつて居ります、ソコです、何ぜ日本人が小さいかと申すと、日本人には今迄の習慣であつて、體育上惡い習慣がありまして、年々年賦の借金を濟崩すやうに身體を小さくして參いつたのでありますそれには何か原因がなくてはならぬ、其原因は何かと申すと、日本人は座る癖があります又唯今高橋博士の御話の如く脂肪などは皆さんが御嫌ひ、重に澱粉質のもの、甘藷のやうなものを御好きなされる、其上に座つて居つてチヤンと足を組むで居られると云ふやうな結果が、日本人をして今日の樣に小さくならしめたので御座ります、殊に今まで母親方が皆小さい、お祖母も小さい、それで又今御生れになつた御方が小さいと云ふやうなことになつたのであらうと存します、實に西洋人の身躰と日本人の身躰と較へて見ますると、非常な相違で御座ります、剰さへ私のやうな者が西洋に參つて居りますると、一層其感じが深いのであります、然るに歐羅巴に住つて

西洋人の様子を見ますると、中々澱粉質ばかりではなく、脂肪を喫べ肉食を致しまする、其上に英吉利人などは女子でも盛んに運動を致します、何れの國でも運動をしない國はありません英吉利に參つて見ますると、是は前會にもお話し申しましたが、女子の身躰が二十年間運動を奨勵しました結果五寸位高くなつた私共のやうな小さい者が其婦人の側へ列んで歩みますと腰までしか御座いません、まるで腰巾着のやうな風であります、日本へ歸つて來て見ますると、目今は衣服の改良に注意されるやうになつて、お姫様方が袴を穿かれまするやうに見受けますので、段々に良くなつて參りました、良くなつては參りましたがまだ私は不充分と存します英吉利獨逸の人に打勝つやうになるには、未來の母親たるべきお姫様方が大きくお成なされてさうして大きな兵隊をお生み遊はすやうにならなければ可けませんと存じます、ヤレ増税がどうだ、税をさう澤山出すことは出來ぬなど丶云ふやうなことでは往かぬ、皆な身躰を強健にして國家に對する義務を爲さねばなりません如何なる困難辛苦にも長く堪へられるやうにしなければなりません、

其大目的を達する方法は如何であるかと申しますれば、母親の身躰が大きくならなければならぬ今日御集りのお方は皆親母になられる方でありますから未來の國民を生まなければならぬ方々でありますが、親母の身躰が最も大切なので御座います、詰り是に付ては運動と云ふことを第一になされねばなりませぬ、歐羅巴では婦人が自轉車に乗ることが流行して居りますが、近頃では日本でも大分流行致して居りました、見渡す所が今日御出席の方の中にも大分居られるやうに思ひます、併し日本では西洋のやうに道路が出來て居りませぬ、デ砂礫などが敷いてあつ

て誠に乘り惡くい、所か歐羅巴の方では道路も自轉車に乘るやうになつて居まして、タ、キのやうに出來て、婦人が自轉車に乘るから乘り易い樣にと云ふて道を直して居ますが、日本では道路を往來する人が成るたけ固めて往くものですから、市廳杯がそんな事に構はぬでも宜いと云ふやうな風で人力車などは中々酷い、其砂礫交りの道路の地ならしをさせられて居りまする、

それから彼方には游泳と云ふことが盛に流行て居るのであります、それは何時でも出來る樣になつております、大きな學校などでは游泳場が設けられて譯もなく出來ることになつて居まする、此位の大きな場所へ水を通して置いて、微温にしてあります、大學倶樂部の中などには、水を泳く所が出來て居ります、それで婦人方にも稽古が出來る、それは無論風俗を害しませぬ樣、特別の室が出來て居りまして、其處で着物を着替へてさうして中へ這入ることが出來るやうになつて居ります一躰昔から御婦人方が御湯に御這入りになる時には、必ず白い布を風呂場に敷きましたもので、歐羅巴でも白い布を敷きますが——日本で云ふ風呂敷と云ふもの、アレは昔は風呂に這入る時に使つたもので、それから日本には腰を包むものがあつて、それを名付けて湯巻と申して居ります、然るに游泳と云ふことは宜しいに違いないが、日本の御婦人方に於ては大磯鎌倉など海濱に御出でなされて、風俗上あまり感服致しかたい見苦しい有樣て水の中に飛込む、私共は始終御見受け申しますが、是は大いに改良を致さぬければならぬことゝ存します、此節はまだ寒い時節でありますが、寒いと云ふ中にモウ直ぐに花が咲きますし、それから又直ぐに海水浴に御出掛けになるやうの時季が參ります、それで御座りますから私は今日海水浴を

なされて、御身幹を強くなされるのは大賛成で、どうか皆樣が夏になつたら海水浴に御出掛けになつて、さうして十分水の中でも運動が出來るやうに望みますが、それに付けてはどうしても御婦人の身支度を直さなければなりませぬ、今迄のやうに日本の海水浴へ來つて見ると、濱邊へ出てどなたも衣服を着換へて、金巾の大きな風呂敷見たような物を穿いて、さうして大きな麥稈帽子を被つて、書生が三尺帶を締めて大道を歩くやうな有樣で御飛込みになるが、あれは誠に見好くない、何か此衣服、服裝に付ての一つ考をしなければならぬと思ひます、

それで私は萬國醫會の用事も濟み、さうして躰育會がある以前に、白耳義の世界有名の海水浴場の有樣を見て來ましたから、今日は其御話をしやうと思ひます就ては皆さんに見せやうと思ふので、寫眞を持て歸りました（此時辯士寫眞を示す）白耳義の國に來りましたのが八月下旬で「オスタンド」と云ふ―「押すと餡でる」なら饅頭でありますけれども――其海水浴場は中々有名なものであります、英吉利の國には海水浴場が澤山あるに拘らず、其處へ皆やつて參ります、或は其他の國からも皆やつて來る、其オスタンドと云ふ處の海水浴場と申しまするは斯う云ふ立派な宿屋が澤山列んで居る、さうして濱邊は北海でありまして砂地で水際から石段がダンダラに組んであります、それが幅が八間から十間程ありませう、さうして海岸へ伊太利から來る陶物で凡そ長さが三千メートル、其幅が三十メートルばかりの堤が出來て居つて、其處を散歩するやうになつて居ますさうして朝夕二回海水浴を致しますやうになつて居ります、此海水浴場に參いつて見ますると「カヂノ」と云ふ大きな建物がございます、カヂノと云ふのは保養院で、其處で色々の遊びが出來る、骨牌を取る

とか玉突をするとか、それはオースタンドの市立の建物であります、其處へ這入る人には錢を取つて入れるのであります、

私は茲に於て皆さんに御話申したいのは何であるかと申しまするど此水の中へ這入る時の御婦人の風を御話しやうと云ふ考でありますが、日本に於ても追々改良しなければならぬことで今のやうな着物を着て、さうしてあア云ふ塩梅に飛込みになることは第一に改良せねばならぬ、

彼の地の海水浴には着物を着換へるのに、一つの馬車があります（此時辨士手を以て形を示す）斯う云ふやうに大きな函のやうなものがあつて、それに車が附いて居つて、馬が挽くやうになつて居る、それで馬が挽く前に其挽く所のものに梯子が付いて居つて、それに乘つて這入り込んで行つて、其中で着物を着換へるので。其内部には鏡も櫛もある、其處は綺麗になつて居つて、さうして着物を着換へる所には鏡などが掛けてありますさうして其車を馬が挽いて海の中に這入る、今度は其車を水の中に置いて馬が戻つて來る、さうすると其車の附いて居るものが梯子段になつて居つて、中から降りて來て水の中へ這入ることが出來る、而して泳きを知らない方は、危いから男子の着物を着けた人が側に居つて案内してやると云ふやうになつて居ますから少しも危險なことはありませぬ、尚ほ危險を防ぐ爲めにどう云ふ風にしてあるかと云ふと、其海の中へ向ふの方に舟が澤山出て居つて、水上警察の巡査が二三人づゝ乘つて舟を漕いで居て、溺れたと云ふと直ぐに救ひに來ます遠淺であるが隨分波が寄せて參りますから、危險のない爲めに、さう云ふときは後の方でドンと波が來ると喇叭をブーッと吹く、或は大きな波が來ると赤い旗を振る、それから又た海水浴が濟んだと

云ふので車に乗ると、直ぐに馬が迎ひに來るからそれに乗つて歸つて往くのでわります、それから婦人の風は、着物が透いて見えやアしないかと云ふ御考へもありませうが、決してさうでなく、醜態を露すやうなことはありませぬ、下にはズボンを穿いて居る、其處は派手な場所でありますから、隨分華美な着物で厚いものを着て居りますから、風が來ても捲り上つて股が見えるやうなことはありませぬ、日本のやうな着物では風が吹いて來ると直ぐ裾が捲上げられて脛が露はれて仕舞ひますが、そんな心配は少もありませぬ、それで又感心なことには海岸に赤十字の出張がある、海岸に小さい家があつて、其處に御醫者さんが出張して居つて、若しも負傷人とか水に溺れた者があると、早速出て行つて治療をするやうになつて居ります、それですから誠に便利で、容易く面白い游泳が出來ます、それに又其濱邊と云ふものが實に綺麗で、白砂千里と云ふやうな砂地で、小供などが澤山遊びに來て居ります、小供達は海に這入らぬで其砂地で遊んで居る、さうして其處に御臺場を拵たり、大きな池を拵へたりして居つて、又其近所には小供の好きな手遊品の車だとか鋤だとか云ふやうな物を賣つて居つて、或は羽根を突いたり紙鳶を飛ばしたりするやうなことが皆海岸で出來ます非常に健康に適ふ樣に裝置の具はつて居る場所でわります、

それで私はどうか日本の海水浴場も、西洋のやうに發達をさせたいと考へます、日本のやうな亂暴のことでは中々六ケ敷い、海水浴場が設けられてあつても海上の保護をする巡査は居らず、それで其保護をしたり案内する者は、眞黒なマルで海坊主見たやうな者で、それで御婦人方などは喜んで手を引いて行く、あア云ふ眞黒な奴に手を引かれて行くのは隨

分醜くいものであります、一躰海水浴と云ふものは、身躰の保養の爲めに至つて宜しいものでありますから、追々改良されなければならぬと思ひます、何れの國と雖も西洋では着物を着換へる所が出來て居りますが、日本のは海邊に出ても着換へると云ふ所はありませぬ、私は是非游泳はなさることを御勸め申上げますが、それと同時にどうか海水浴をなさるなら、身躰に相當なる着物を御拵へになつて、さうして海に這入ると云ふやうになすつたら宜からうと存じます、是がお土産の一ッ、それから又日本の人は大變外國に名譽を得て居りますので、それを永く續かせるやうにするには、是非御婦人方が身躰が十分發達しなければならぬと思ひますから、尚ほ游泳の外に少し申上げたいことは、此前の衛生會でも帶のお話をしましたが、一般に日本の婦人は、紐を多く締め過ぎると云ふことを申上げましたが、私は茲に御婦人の衣服を改良したいと云ふのは、西洋に往つて岡田良平君と一緒になつた時に、どうも今迄の服裝は不便であるから、袴を婦人が穿くやうにしたいものであると云つて彼方で話をしたことがありますなぜと申せば、西洋の服裝も感服せぬ、西洋の婦人が往來を歩くのを見ますると、裾の長い着物を着て往來の掃除をして歩るく、マルで箒見たやうなものだ、さうして腹の所を括つて蜂のやうな鹽梅でありまするが、一躰腹を強く締めるのは躰育上大變毒である、それのみならず人の唾を吐いたり又汚い物のある道を、着物を曳きづつて歩くのは甚だ宜くないから、西洋の服も成べく裾を短くすれば歩き宜ふ御座います、帶の代りに着物を用ゐると云ふのは最も悪るい、併し日本の着物に付ては餘程改良すべき點がある、皆さんがお召しになつて居ます衣服は袖が机へ引ッ掛つたり硯の中へ袂が這入つたり、お

茶碗を引繰返へしたりして危險が多い、今日さアと云ふ時分にそんな長い袖では何んにも出來ませぬ、それだから襷を掛けて働くやうになつて居りますが後來斯う云ふ着物を廢されんことを望む――それで今日學校へ通ふ娘さん方、せめて小い方々にだけでも便利な衣服を着せて、さうして衛生に適ふやうにしたいと思ひます、私は色々工夫して、自分の娘に改良服を着せて學校へ通はせて居りますが、大變自分でも便利だと申して居ります（此時辨士令孃を會場に紹介す）是は私の娘でございますが、斯う云ふ衣服を着けて居ります、是は筒袖であります、さうして此下の着物は袴になつて居ります、さうして此袴を細に掛けるやうに作られてある、下にはフランネルか何か襦袢を着て居ります、莫大小とフランネルと、それから着物は膝の上まであつて、ズボンを以て下は掩はれてさうして締るやうになつて居る、後刻是は十分に御覽になれば分ります、日本の袴とは少し違ひます、此着物を拵へるのは別段に錢が要りませぬ、皆樣のやうに海老茶の袴でなくても、斯う云ふのなら直きに出來る、丈が短いからどうでも出來るし、又學校などの往復に便利であります、大變に自分が便利であると申して居ります、それから私は此上に着せるものを考へました、別段六ケ敷いこともない、矢張り昔の陣羽織見たやうなもので、通常自分の家で出來ます、斯う云ふ着物を着る、寒い時には是を着る、寒くない時には之を脫いで居る、是は皆自分の家で拵へたのであります、下に穿いたズボン、ズボンの下にも白い股引を穿いて居ります、それで御婦人方であるから放尿に被往しやる時に前が開くやうになつて居ります、十分是に改良を加へて行たら、良い物が出來やうと思ひます、それで袖があつて邪魔になると思つたらモウ少し短か

くお切りになるが宜い、日本服でございますと袴はなくても裾が長いから歩き悪い、三枚重ねなとを召すと、事實是に着物が巻附いて、寧ろお苦しみになつて仕舞ふ、それで下には綿が這入つて居りますから、尚更歩き悪いのでございます、それで成るべく學校に於ては靴を穿くやうにしなければなりません、皆さんの中では大分靴を穿いて居られるが、今後も益々靴を穿いてお歩きになるやうにしたいと思ひます、靴なれば下駄を穿いて歩くやうに轉ぶやうなことはない、足の爲めには下駄を穿くよりも餘程好く、又歩き好いのであります、日本の御婦人はどう云ふものか歩くのに足を曲げて御歩きなさる、事實曲つて居るのでもなさゝうだが……斯う云ふ鹽梅に實に歩き悪くい、それは左の先の先きへ右の足を以て行き、右の足の先きへ左の足を以て行く、ア、云ふ風にして加之に家へ行くと足を重ねて座つて居る、此座ると云ふのは甚だ宜くない、どうか十分便宜な着物の出來ることを望みます、デ私は濫りに私の子供の通りになさいと云ふのではございません、唯人間の發育を能し又運動を致して行くには、何れが適當かと云ふので考へたのであります、それで男の子も佛蘭西の貧民學校の生徒に似て居まするが、決してそれは差支へない、小さい時には半股引を穿かせる、靴の代りに草履を用ゐても宜い、さうして一つの「シヤツ」のやうなものを着て居るのです（此時辨士改良服を着けたる令息を紹介す）此若物で、是も矢張り自家で拵へたものでどなたにも出來ます、下にズボンを穿いて綿入れの着物を着て居ります、さうして斯う云ふ風に丁度佛蘭西の貧民學校生徒が着て居るやうな制服であります、是が便宜でありますから、私のやうな貧民の子供には適當して居るのです（笑聲起る）それて貴孃方の御兄弟

方が、彼の便宜な外套を召すやうに望みます、シヤツを拵へるやうにすれば出來るのであります、さう云ふ風にしたいので御座います、私は此頃聽きましたが、未だ東京の學校に於ては――小學校に於ては靴を脫がせて板の間を步かせると云ふことでありますが是は間違つて居る、此間も敎育會で御話を致しましたが、靴で步ける處を跣足になりて、草履で步ける處を殊更に脫がせるなどと云ふのは大間違ひ、靴の者は靴の儘て步くが宜い、どうがさう云ふ鹽梅に靴も小學校で許されるやうに致したい、運動に大變に關係がありますからなるべく靴を奬勵するやうに致したい、で又皆さんの下駄は高い、そんな高いもので轉倒かへつて足を痛めてお醫者さんに掛つて診察を受けなければなりませぬ、スルと藥代や診察料も掛かる、ナカ〳〵手數の掛つたもので御座います、それで直段も高い、下駄を三足買ふ錢で靴が十足位ゐ買へまする、それで今日御話した所の海水浴をなさるやうに、皆さんが十分游泳をなすつて御運動をなされる、其運動に就ては又便宜な着物を着なくては往けないと云ふ御話をしたのでございます、

先刻も高橋博士の御馳走の御話が出まして、含水炭素で肉がどうであるとか云ふやうなことの御話がございましたが、マア肉食が進んで參りまして豚でも鳥でも澤山に食へるやうにしたいと思います、色々の方面から講究して居りますが、アレは一體佛法の坊さん――佛の方の敎でも酒は飮まぬと云ふことはありまするが魚は食はんと云ふやうなことは御座いません、それでございますからお釋迦樣でも皆牛乳を飮んだし肉食もなすつて居つたさうであります、此間も牛乳屋を集めて神田の靑年會館で搾取の改良、殺菌方法、飼牛法等の演說をして置きました、

歐羅巴では牛乳を皆消毒して用ゐるやうになつて居りますから、どうか日本でも澤山牛乳を召上がるやうにして、牛疫が出れば早く叩潰して仕舞ふやうにして、一方には牛乳を澤山飲むやうにするには、それと同時に肉食の方も盛んにしなければならん、是からは少しも心配するやうなことはございません、それは獸醫を派出して屠獸を檢査して居りますから、御安心なすつて豚なり何なり澤山召上がるやうにすれば、自然頭の發育が好くなつて、十分勉强も出來るやうになりませう、どうか皆さんが牛乳を充分に召上がるやうに願ひたい、今日は皆樣に御馳走の御話、御召物の御話、それからお遊びの御話を致しましたが、どうか十分に召上つて能く味はつて下さるやうに願ひます、別段お土産にもなりはしませぬが、皆さんのやうな前途有望御中年の方々が御努めあそばさなければなりませんことは養生で御座ります、今日は殊に奥村さんの熱心なる支那朝鮮を實視した御話で、夫等も大したお土産になります、どうかお忘れのないやうに願ひます、其他高橋博士の御話、私の御土産話などありましたから、十分御土産になつたと思ひます、私のお土産は至つて少々でございますが、是で御不承を願ひます、さぞ御退屈でございませうと存じて御詫を申上げます、



寄書

山根警察醫長の談

○改良の衣服

衣服改良の必要は業に已に世間に於て承認せられ數多の摸本を公けにせる者ある程なるも未だ其之を實行せる者の少きを慨し山根警察醫長は頃日自から一

種の改良服を案出したり氏の改良衣服は先づ普及を圖るが爲め主として衛生に適するは勿論兼て經濟、輕便の二點にも其心を用ひたる由にて全身を衣と裳(袴)の二種に區別し衣は斷然長袖を廢して筒袖となし胸腹も從來の衣服の如く數多の帶紐にて緊縛するの弊を去りて亜に鈕を用るとなし其材料は成べく我國の製品即ち木綿紬物(色物若くは縞物等)を用ひ裁縫の如きも頗る簡易なれば凡そ裁縫の術を心得たらんものは何人も容易に之を製するを得べしとなり而して氏は此の衣服の改良と共に女子の履物をも靴に變じ帽子を冠らすの決心にて此の風習は漸次女兒より慣はしめんと現に其家族には之を實行せしめ居れり、

卷首掲ぐる第一圖は女兒の衣裳を着したる正面を寫し、第二圖は其背面を示せるものなるが袖又は裳等に於ける縫取其他の裝飾は人々の嗜好に應じて施すを得べく又兵兒帶は鈕と裳の紐を隠し併せて外觀を裝ふため裕かに〆めて後に垂るゝなり、尚此衣服の詳細なる解説及び裁縫方等は以下順を追ふて記載すべし、

山根氏の改良衣服は既記の如く成るべく一般社會に普及せしむるの目的なれば簡易(一)(二)輕便を主とせる所謂平民的衣服なるを以て優美の點に於ては尚ほ考案を加ふるの必要あるべし但し襟の如きは鈕掛の却て從來の衣服の合襟の優美にして且つ簡便なるに如かざるを以て改良衣服には之を採用せりと、されば袖口、袴裾其他の裝飾に意匠を凝らせば一層優美のものたるべし改良服は上衣、襦袢、下衣、褌、羽織より成るものにして第三圖は襦袢、下衣及び褌を着たる所(脛部は靴下)第四第五の二圖は襦袢にして其の(三)(四)仕立方は普通の襦袢と異なるとなければ別に裁縫方を說明する迄もなかるべし、其袖を附くると

附けざるは便利に從ふべく只襟は成るべく白き物を用ゆる方宜しからん第六圖は襌、第七圖は下衣にして其製は股引の如きものなれど前後の合目を淺くして便用の時一々之を脫(五)(六)し去の不便なからしめたるなり而して下衣は紀州ネルか木綿(裏付)など適宜の品物を擇ぶべし第八圖は上衣(表)第九圖は上衣(裏)にして其裁縫は普通衣服の腰部以下を截斷して之を筒袖とし袵を付けざるものにて(袵は都合にて付くるもよし)前は紐にて結び合はすべし而して之を着する時は裾を下衣の中に包み込むべく前後の紐は袴を懸るために設けたるなり(尙ほ袴の部にて説明すべし)

此上衣の地質は何品にても成るべく丈夫にて廉價なるものを選擇するを主とすべし(上流者にして絹其他上等の織物を用ゆるは格別として)其の柄は縞物ならば大柄にて判明したるもの似合ふべく又色物も可なるべし而して上衣と袴とは其柄同一ならんことを望めど色の配合によりては上下別物を用ゆるも亦た宜しからん、

袴は其丈けを短くして脛の中部に達する迄を度とし主として其坐作進退を自由にするの便を計らんことを期すべし、兩脇は馬乘袴の如くに開き紐は前後に着けて腹と腰上にて交互に結ぶべし尤も袴の紐の前後の中央には穴を明けて上衣の釦に篏め之にて袴を懸るが故袴の紐は成るべく緩かに結ぶを要す尙ほ此に一言注意すべきは今日行はるゝ袴は体裁を修飾せんため高く之を胸部に及ぼし且つ其紐を緊縛するがため折角の袴も衛生上有害のものとなり從來の帶と同一の弊に陷らんとするの傾きあり故に改良袴は此の弊害を避んがため釦を用ゐ紐は只だ腹部に結び付くる迄なり、第十圖は表面、第十一圖は裏面を示せるものにして襞積は適宜に疊み全体は成るべく緩か

に仕立て裾の方は擴がる樣にする方躰裁よかるべし
如上の說明にて一應上下服の部を終りたれば是より更に羽織に就て一言せん、羽織は所謂外套にて雨合羽にも代用し得べく其仕立方は普通の被布を筒袖にしたるものと大差なく襟は折襟とし前は釦にて止むるも可なれど第十二圖(表)の如く紐にて止むる方優美ならん又た第十三圖(裏)に示せる如く揚縫の外脊筋を適宜に打疊みて中程まで縫ひ其下部は襞褶のまゝになし置けば裾開けて躰裁よく且つ行動の自由を助くべし
要するに右改良服は山根氏が先づ何人にも之を實行せしめんとの目的より其模本を造り之を世間に發表せられしものにて氏は隗より始むるの意にて兒女には既に此の改良服を着せしめ居り尚ほ婦人及び其他の家族にも之を及さんと目下其準備中なる由又聞く所に據れば山口高等女學校にては生徒一同に此改良服を着せしむる議あり過日其雛形を取寄せたりと云ふ
追記前に掲げたる袴は所謂アンドン袴にて無論マチを着けず且つ其大さも成るべく寛裕にし寒中には一二枚重ねて着するとも自由にすべし　(畢)

肺病豫防養生法(第十四)

醫學士　竹中成憲君

呼吸器の事

成るべく口にて呼吸するを止め鼻にて呼吸すべし又口より塵及冷氣の肺に入らぬ樣呼吸器を用ふべし呼吸器とは英語にて「レスピレートル」と稱し口に當てる器械なり
肺病患者は塵埃及冷氣の肺內に入らざる樣心掛べきは勿論にして塵埃を避くるには所謂呼吸器を用ゐ冷氣を防ぐには一は口を以て呼吸するを止め鼻を呼吸

に用ゐ一は又此呼吸器を以て其目的を達すべし肺患者の用ゆる呼吸器は時々之を掃除するを要す然るに通常の呼吸器に在ては其製造職人に依頼するにあらざれば掃除するを得ず拙者の稱用する呼吸器は黒布(八丈)を以て紙袋の如きものを作り之に綿を入れ小さき蒲團の樣に爲し四隅に「ゴム」糸を附けたるものにて其構造甚だ簡單(誰にても製造するを得)なるが故に患者自身に之を全く掃除する事を得べし即ち時々其中にある綿を取出し黒布(八丈)を清水にて洗濯し之を日向に乾燥し跡へ新鮮の綿を入るればよし取出したる古綿は紙屑籠等に入れず便所へ捨るか又は燒き捨つべし綿を如此場合に用ゐ大効あるは今日の醫學社會の知る所なり四隅に付着したる四本の「ゴム」糸は適宜結紮して常人の耳に掛けむが爲なり

右に述るが如く肺病者の痰の中には肺病の細菌即ち「バクテリア」(虫)存在するものにして痰壺の中乾燥する時は此「バクテリア」は室内の空氣中に飛散すべし故に痰壺の中へは常に石炭酸水にても入れ蓋を爲し置くを良とす

右の理由なるを以て健者たりと雖も人の家に到りたるとき烟草盆の痰吐には口を接せざるを良とす我國人の慣習として時々ある事なり注意すべし火吹竹も亦注意を要す酒杯、電話器、醫師の活量計(スピロメーテル)等凡そ人の口を直接に接するものは皆然り

上記の如く痰の中に病毒(虫)ある以上は之を嚥下すべからざるや明なり可成多く痰は出すべし隨て之を容るには普通の痰壺の大なるものを製し常々中に石炭酸の濃厚なるもの即ち二十倍のものを入れおき此上に痰を出し蓋を爲しおくべし拙者の知友なる大阪の醫學士に十年間肺疾を煩ひしものありたり此人は「ニッケル」を以て筒及び蓋を作り中に細長き瓶(「キ

ナエン」の明瓶)を入れ置き殆んど他出爲すにも之を携帶せり而して瓶は何本もあるが故に痰半ば之に滿れば直に下婢に命して他の瓶を入れ換へ下婢は其瓶を石炭酸等を以て消毒せり近來携帶用の別製あり拙者の考に據れば何人も己れの庭の隅に穴を堀り之に植木鉢を埋め蓋を爲し置き痰は總て此植木鉢の中へ捨るを良とす然る時は痰は此植木鉢の底の穴より地中に入り漸々無害となるなり殊に此植木鉢の中へ石炭酸又は石灰を入るれば大に良し

寒國の慣習として茶の間の爐の隅に痰壺を置くは敢て惡しきにあらざれども乾くときは病虫の飛散する恐あり壺の熱するとなき樣にすべし

肺病者己の痰を咽下すときは下痢症を發すると速なり其理由は痰中の肺病細菌(虫)胃を通過して腸に到り茲に發育繁殖して肺病と同一なる病を腸に發するが故なり故に痰は嚥下せしめざる樣常に注意を怠るべからず

肺病ある者は酒席に臨むも己れの杯を返杯すべからず是れ己に危險なきも先方にて好まざればなり肺病なきもの肺病者と酌む時は用意して杯を送らるゝとも可成蔽眼去るを良とす杯洗は實に缺くべからざるものなれども肺病者の酒杯を屢々濺ぎたる以上は不潔否危險極まるものなり主人たるもの來客の爲め注意を要す坂地に於ける如く杯洗の水を貯へて酢を製するが如きは拙者の好まざる所世の開くるに從ひ杯洗の水に消毒劑を入るゝの必要起るべし

故に我國の慣習たる交杯は之を漸く廢止し西洋の一客一杯の式を採用致したし(我國にては置つぎを爲すときは特に御免と稱すれども西洋の風は毎回必ず置つぎなり)之に反し外國の接吻は實に恐るべき慣習なり外國にては是一種の禮式なり

外國人は梅毒も亦交杯の如き場合に於て傳染すること

とを信じ大に之を忌む學理上實に然るなり〇〇に遊ぶもの煙草管を恐れて可なり

外國の公娼ある所に於ては娼妓の梅毒、淋疾（此症別物なり）の有無を檢するは勿論なれ共同時に肺病の有無を檢す我國にても東京其他に於ては既に此法を採用し居れり（此地亦然り）

世人朝、顏を洗ふ時臺所の流に於て揚枝を使ひ流に痰を爲す事多し然れ共考ふれば此流には常に野菜を洗ひ魚を料理し其上に落たるものも亦直に食器に移すとあり此如事豈注意せずして可ならんや

狀袋を封する時「ゴム」の所を舐るを例とす肺病者の唾液中には「バクテリヤ」即肺病虫あれば其送り越せる封筒の「ゴム」は恐れざる可らず又肺病者の用ゐたる筆にも此虫あり蓋し筆を使用する時は其頭を啣むと常なればなり故に他家に至り筆を借用するも之を啣む可らず此二事は余の學友遠山椿吉君の證明したる所なり

世人近來使用濟郵便切手を集むるの癖（若者最も熱心）あり之を取扱ふるもの之を口にすべからざるや明なり

郵便切手を貼布するに西洋の氣の利きたる人の机の上には「ガラス」を以て作りたる「インキ」壺の如きもののあり中に「ガラス」の圓きもの回轉す此器の中の水を入れをき此圓柱に郵劵を當て丶圓柱を回轉すれば郵劵に水附着するなり兎に角新らしき郵劵なりとも舐めるはよろしからず

（未完）



齒の衞生に就て

胃腸病院內　賛成員　關　善　重　郎君

(1)本邦婦人の齒を染むるは古來の一遺俗なり今其害

の一斑を述べん鉄漿にて歯を染むるには先づカチシタと称する者を用ゐ歯質を粗糙ならしめ而して此カチシタなる者は酸類より製造せられ能く歯質を溶化するの効力を有す故に塗布するときは琺瑯質は侵蝕せられて粗糙となり染色の目的を遂することを得る尚ほ数回反覆するときは琺瑯質は漸々侵蝕せられて齲歯となり或は歯の衰亡を招くに至る殊に染歯をなす者は其脱色を恐るゝが故に自然歯牙の掃除法を怠り不潔なるを以て歯間に物の滞留し酸類を醸生し益々歯質を溶化し終に朽化欠せしむるに至る注意を要すべし

(2)砂糖を食したるときは速に口中の清潔法を行ふべし等閑にし歯の養生法を忘れ久しく歯の間或は齦肉の間に滞留せられ直に醗酵酸化して一種の酸を醸成し以て歯質を溶化崩壊し種々の患害を招くや明かなり彼の硬固なる金米糖及氷砂糖等を咀嚼するに当ては歯冠に裂傷を生ずるが如き害なきにしもあらず砂糖は胃中に在て乳酸に変じ石灰分を溶解し吸収せしむるの作用あり

皇孫の御降誕

皇太子妃殿下には四月二十九日午後十時十分いと安らかに親王御降誕あらせられ御母子とも極めて御壮健に渡らせらるゝよし洩れ承るもいとかしこし普天の下率土の濱誰か此吉辰を祝さゞるものあらんや今宮内省告示により謹みて御命名の次第を承るに

親王　御名は　裕仁　迪宮　と称し奉る茲に本會は　謹みて

皇孫親王殿下の御降誕を祝し奉る

明治三十四年五月十日

私立大日本婦人衛生會



衛生叢談

◉男女特種の疾病

男子と女子とは各身躰の組立を異にするが故に男子に多き病症と或は女子に多き病疾との別あり女子には生殖器の疾病即ち月經不順を初めとし娩産前後の諸病殊に産褥熱、子宮の腫物、乳癌、乳腺炎の如き者あり男子には生殖器病多く又男子は女子と異なり社會に立ちて世の艱難に處し心神を勞すると多して酒類を飲用するとも亦多きが故に精神病に罹ると多し其外男子は種々の危險なる場處に出入するが爲に外傷を蒙ると多し西洋の婦人は「コオルセット」を使用するが故に胆石と稱する病に罹ると多しと云ふ其他婦人には「バセドー」氏病多く男子には脚氣、糖尿病の如き者多し

◉年齢と疾病との關係

人生を分つて小兒期、少年期、壯年期及び老人期となす

小兒期に來る病は腸胃病、腦水腫、氣管支病、百日咳、「ヂフテリー」痲疹、猩紅熱等にして六七才以上を少年期と云ひ肺病「リウマチス」壯年期にては種々の傳染病、精神病、外傷に罹り易く老人に達すれば癌腫、腦出血等の如き者多し

◉産褥養生法

妊婦の子を娩みたる跡を褥婦と云ふ之れ必ず褥中に居らざるべからざるを以てなり故に此時を産褥時と云ふなり而して産褥は又妊娠及び分娩に等く全く生理的の中に在るを以て正順の經過をなすに於ては自然に復するものとす然れども妊娠及び分娩の際發りたる身躰の諸部の變化殊に膨大となりたる子宮は漸

々縮小して故形に復せんとし而して弛緩したる子宮繋帶(子宮を吊るす靱帶)は未だ全く緊力を得ざるを以て動もすれば子宮の位置を轉ずることゞ多く加之分娩の際大量の血汁を流出して身心共に興奮性となり且つ乳汁分泌の發動を平常に在りては障害とならざる少々の變化も大患の原となり若くは永生の痼疾を致すを以て攝生保護を忽せにせざるものとす是故に産婦は必ずや一定期の中は蓐中に安臥せざるべからす而して其蓐に臥すべき期は少なくも二週間以上ならさるべからず斯くして後漸次に以前の生活狀態に復るべし但し全く通常の勞作を爲すに至るは産後六週日以上を經ざれば不可なり又産婦は生殖器を清淨に保つこと必要なり故に分娩するや直ちに豫て設けたる温暖にして新鮮なる蓐牀に臥すべし而して之れに臥するも産婦は自ら起つなかれ必ず看護人の佐助に依るべし然して斷へず多少流出せる液に由て汚染せる臀敷の交換を要するも先つ第一に暫時眠るを良とす但し臥位は仰臥又は側位に任すへし

蓐婦は通常食慾の少なきものなり故に與ふるには肉羹汁、葛湯、鷄卵、白粥の類を宜しとす飲料には淨水、牛乳、廉なる茶(番茶)を以てす而して食慾振ふに至らば鳥獸魚肉を與へ漸次常食に復すべし但し不消化物又は酒類又は香味品は忌むべし

尿　尿の通利も注意すへき點なり産後三日に至り便通なきときは灌腸を行ふべし(灌腸料は石鹸温水八オンスに蓖麻子油半オンスを加へたるもの)又輕度の下痢は恐るべきに非すと雖も駿下劑(烈しく下る下劑)は禁すへし故に自家にて灌腸をなす能はすんは醫士に依頼すべし

産蓐室は成るべく廣く清く空氣の流通良く道路又は職工場の傍ならざる或は出入烈げしからざる居室を撰むべし而して室は鮮明に過くるは反て蓐婦を興

播するの恐れあり且つ室内は冬に於ては攝氏二十七八度に温め置くへし而して無益の來訪者を其室に入るゝを謝絶し成るべく心配を爲さしむべからず

○自己衛生法

左の一篇は山梨縣檢疫部長田伊佐君（本會贊成員）の寄送に係り同縣衛生會に於て會員に配布せるものなりといふ

一　朝は早く起き夜は早く寝るを良とす夜更しは決して爲す可からず

二　朝起き出づれば先づ齒を刷毛（ブラシ）の類にて能く掃除し微温湯にて幾度も含嗽をなし勉めて口内を清潔にして齒の健全を保つ可し

三　顔を洗ふには冬期と雖ども冷水にて先づ手を洗ひ次で顔面耳頸部等を洗ふ可し洗汁は再び金盥に入れざるを良とす

四　強固法即ち毎朝四季を通じて冷濕布（手拭を冷水に浸し搾りたるもの）にて胸背等を摩擦して後ち衣服を着る樣な習慣を養ふを良とす（感冒等を防ぐに最も良なり）

五　朝飯は起床後直ちに食する惡習を止め暫く掃除などして時間を經たる後ちに食するを良とす

六　食事は茶漬又急食（急いで食するこの習慣は改むべし

七　食物は充分に咀嚼し靜かに嚥下せざる可からず咀嚼不充分なれば消化を害し胃弱等を起す恐れあり

八　食量は常に定め置き美味と雖ども一時に多食す可からず又食事を爲す時間を常に定め置くを要す

九　食事中又食前後にても湯、茶、水を多く飲まぬ樣な習慣を養ふ可し

一〇　食物が膝の上或は疊の上などに落ちたるものは食す可からず

一一　食後は湯又は茶等にて含嗽をなし齒間にある食物の殘滓を除き勉めて口内を清潔にす可し

一二　食後暫くは運動を爲す可からず大抵三十分乃至一時間を經て後ち運動す可し

一三　食物は可成消化し易き者を撰ぶは勿論場合に因り不消化物を食するときは可成長く咀嚼するを良とす

一四　生物生水は可成飲食せざる習慣を養成可し

一五　腐敗に傾きたる物は勿論不熟の果物又食ひ馴れざる菌類等は決して食す可からず

一六　食物は常に蠅などの宿らぬ（タカラス）樣又塵埃等の這入らぬ樣常に蓋を爲し置く可し

一七　間食は極めて宜しからざれば可成食せざる樣に習慣を付く可し已むを得ざる場合は消化し易きを撰ぶは勿論なり

一八　旅宿は家に在りて食すると同量を良とす殊更に增減するは宜しからず

一九　多人數同時に辨當を食するときは自ら急食する惡癖あるものなれば勉めて充分に咀嚼し靜かに飲食せざる可からず

二〇　辨當の菜等を遣り取りす可からず

二一 手攫みにて食物を食し又直下に食べる物を卓の上板の間又は布團の上等に置く可からず若し置きたるものは食す可からず
二二 通學の途中立食又は買食等は決して爲す可からず
二三 食後直ぐに寢るは宜しからず
二四 深夜に及んで飮食するは宜しからず
二五 飮食物は時期に拘らず非常に熱き物又非常に冷き物は宜しからず
二六 咽喉の渇きたるときは可成沸しさましを用ふるが良とすれども已むを得ざるときは濾過したる水を用ふ可し
二七 喫烟飮酒は有害なれば嚴禁すべし
二八 入浴は身體を清潔にするに必要なれば冬期と雖ども一週間三度以上必ず入湯す可し

（以下次號）

皮膚病の話（承前）

在大學 Dr. K. K.

ねぶと（根太）の話

根太と云ふは皆さんも御存じの通り、屢々頸、腰部、などに出來まする腫物で御座いまして、之が一つ出來ますると次ぎ〳〵に幾つも出來ますから、それで俗に又ねぶ十とも申します、醫者の方では之を癤と申します、

根太は主に若き元氣の良き人に出來まして、此の出來る原因は爪で痒くとか、或は又着物にて皮膚を摩擦する時に、化膿黴菌と申しまして、膿を作る黴菌が皮膚の毛孔から、毛の側にあります皮脂線の中に入り込みまして、此處で膿を作る爲で御座います、

根太の出來始めは、皮膚の上にぽつりと赤い隆起が出來、此の部分は多少痛を感じ、日を經るに從ひ赤みは段々に廣がり、其の眞中に小さき水泡を生じ、之は間もなく取れて、其跡にはかさぶたを作り、四五日目には此處より膿が出ます、尚ほ四五日經てば再び膿が出まして、之れと共に俗に申します根が出ます、此の根と申すのは取も直さず皮脂線の化膿したので御座います、

根が出ますれば赤みは追々に消失し、其跡は小さき

瘢痕を遺して治ります、

根太は本來左程危險なものでは御座いませんが、只た之が顔に出來た場合には、速に適當の治療を加へませんと、遂には腦膜炎等の如き恐しき病を引き起す事が御座います、俗間でも面疔と申しまするど大に恐れますのは、蓋し此の理由で御座います、又糖尿病の人には屢々根太が數限りなく出來まして大いに困却する事が御座います、でありますから餘り度々根太が出來るようで御座いましたらば、速に尿の檢査を致しまして、其人が糖尿病に罹つて居りはせぬかと云ふ事を吟味し、若し糖尿病患者でありましたらば、速に其方の治療を致さなければなりません、

根太の療法は色々御座いますが、最も宜しいのは、また根太の出來始めに、之を治して仕舞ふのが一番で御座います、其れにはピック氏の硬膏と申す膏藥を貼付するのが一番で御座います、此の膏藥を小さく切り、根太の上に貼付して置きますと、根太は自然と消滅し、痛みも亦た去るもので御座います、ピック氏硬膏は醫者より御貰ひになるのが一番で御座います、

若し腫が强くなり痛みが甚しくなりましたらば、醫者に頼みて切開して貰ふが宜しう御座います、切開致しまするど痛みも直ぐとれ、治るのも亦た速で御座います、殊に此頃では色々の局所痲醉劑が用ひられますから、切開するにも決して痛い事はありません、只だ茲に御注意申して置きたい事は、顔などに根太が出來た場合には、成るべく速にピック氏硬膏を用ひて之を治す事が必要で御座います、若し手後れとなりましたらば、速に適當なる醫者の許へ馳て切開をなさらなければなりません、顔の根太は前に申した通り甚だ危險なもので御座います、又醫者が

未熟で御座ひますと、切開した跡が醜き瑕痕となり、殊に御婦人杯にては悔るも及ばぬ事となります、よく往來で顏に恰も燒印でも押した樣に、十字狀の切開した跡を留めて居る人を見受ますが、實に醜きものであります、

よう（癰）の話

癰と申しますのは、根太に似てそれの尚烈しいもので、丁度根太の幾つも集合して居る樣なもので御座います、從つて膿の出る口も澤山あり、腫れ上がり方も強くして、赤紫色となり、指にて觸れば板にでもさはる樣に堅う御座います、其外又痛も烈しく、熱もあれば頭痛も強く、食慾は減じ、又屡々寒けがしたり、冷汗が出る事が御座います、

以上申上ました樣に、癰は中々強き腫物で御座いますから、屡々色々の重き病を呼び起し、性命を失ふ人が澤山あります、殊に顏背などに出來た場合には、屡々此危險が御座いますから、速に醫者の治療を受けなければいけません、尤も癰にも輕いのが澤山ありまして、自然と膿が出て治るのが御座いますが、兎に角醫者に見せる事が必要で御座います、

癰の治療法は、外科的に之を切開して、惡しき部分を取除くより外はありません、併し前に申上ました通り、局處麻醉をかけますれば、切るに左程の痛もなく、殊に性命には代へられませんから、速に切開をなさらなければなりません



内外實用料理法（第八）

横井たま子

◎豆の飯

莢ゑん豆の莢を去り豆を水にて洗ひ、米と共に豆も釜に入れ鹽を入れ水か減して焚くべし

但し充分みのいりたる豆は始めにざつと湯でゝ飯を炊く時に醬油と酒を入れ豆も共に交せて焚くもよし

◎豆腐の鍋焼田樂

串にさしたる田樂は手數のかゝるものなれは今爰に示す鍋焼田樂は時期にもよらず俄に來客ありて何もあらざる時抔之を試み給へ手軽るに出來得るのみならず却て味ひ妙なり、

豆腐を四角に三、四分位の厚さに切り膳に布をひき其上にならへおき（少し水氣を取る爲なり）平たき鐵鍋、又は西洋フライ鍋に牛の油、又は胡麻の油をひき充分焼けたる時分を計り前の豆腐を鍋の大小に應じて二ッ又は三ッ位入れチリ〳〵焼くなり、既に下片のやけたる時分庖丁にて裏返し其上に木の芽味噌を厚くつけ、暫時鍋に蓋むし豆腐もやけ味噌もあたゝまりたる時庖丁にてこわれぬやうに掬ひとり中皿に盛りあたゝかなるうちに出すべし

木の芽味噌の拵らへ方は先木の芽の葉斗りを摺り鉢にてよく摺り、味噌は篩にてこし（略せば卸さずともよく摺ればよし）木の芽とよく摺り交ぜあくぬき砂糖、又は白砂糖と味りんにてあまく味つけ適宜の鍋に入れあたゝめ置くべし

◎筍と烏賊魚の木の芽あへ

筍を湯でゝ亂切にし烏賊魚もゆでゝよき程に切り、而して之を味噌にあへるなり味噌の仕方は白味噌、中味噌二分の割合とすその味噌の中へ砂糖少し入れ木の芽を摺り込むなり、又獨活にても款冬、にても用ゆれば猶さらよし獨活は太細に拘らず斜切にし、款冬は太きは割り細きはそのまゝ八分位に切るべし

◎卯の花と鯛の丸蒸し

鯛の鱗をさり脊割にして大骨小骨をよくとり去り(小骨は毛ぬきにてぬくべし)頭と尾はそのまゝにし塩をふりかけ暫時卵の花をざつと砂糖醤油にて炒り其中に椎茸、蓮、筍、三ッ葉なぞ細かにきざみ其他麻の實を少し交ぜて鯛の腹部へ一ぱいつめ込、而して竹の皮をさき鯛の腹部の明かぬ用心に二三ヶ所を結びつけて蒸すなり其まゝ大皿に盛りむしりて客に出すべし但し小鯛、中鯛なれば輪切りにしてそのまゝ皿に盛り、而して取わけて客に供するもよし、

◎やき蛤

焼蛤け下手にやく時はわたら潮を覆して、且ッ身に灰を附しむるなり、今之を全う焼くの法は、先その蛤の芽を庖丁にて切り取り而して之を火の上に直に載せて焼けば工合よく焼けるなり、其切りとる芽とは、貝の合せ目を鎖す錠前の如き者なり、そら豆なぞにある芽に似たり、

◎味噌汁

わらびの灰を出し穂ばかり切りて
ゆりの根へかして

◎清汁

結びさよりにちゞれ獨活

さよりは片身卸しざつと塩をふりかけ結びのとけぬためつまようじをさして湯がけるなり、ちゝれ獨活は皮をむき一寸程に切り上より四ッ庖丁を入れ下の方を切り殘し置き暫時水に浸しおけばちゝれるなり、

◎膾す

◯鰈を刺身みに作り熱湯をかけ冷しわさび醤油を添へる

たゞし刺身に作りばらりと解き熱湯を四五遍通し水に冷し器に少し山盛りにす、

◎千代口

○款冬の若葉をよく湯でゝ細かに切り
白胡麻酢醤油
白胡麻を煎り摺り鉢にてすり酢醤油にてとかすなり、
◎香の物
○細根大根の莖を一寸ばかり殘し、葉さきを去り、二時間程日にあてゝ、直に三杯酢に漬ける、之を洗ひ髮といふ、



看護法

普通看護法（續き）

在大學院　Dr. E. S.

皮下注射の事

皮下注射と申しますのは、皮膚の下に藥を注ぎ込みます事で御座いまして、醫者が藥を早く働かせようと思ひますときは、之を內服させます代りに、皮膚の下に注射いたします、尤もどの藥でも皮下に注射してよいと申す譯けでは御座いません、通常醫者が皮下に注射いたしますのは、モルヒ子、カムフル油、エーテル、コカイン、ジフテリヤ血淸などの類で御座います、此中でも最も多く用ひますのは、モルヒ子とカムフル油の二つで御座いまして、此の二つは時とすると看護なさる方が、注射なさらなければならぬ場合が御座いますから、今まざつと玆に此等の藥を皮下に注射する方法を、御話し致します、併し吳々も申上て置きますが、モルヒ子にせよカムフル油にせよ、決して無害のものでは御座いません、二者共に恐るべき毒藥で御座いますから、決して醫者の指圖なしに、御用ひになりましてはなりませぬさて注射を致しますのに必要なる品々は

皮下注射器
注射すべき藥液
二十倍石炭酸水
アルコール
脱脂綿
コップ　二個

右の品々の内注射器は前號浣腸の條下に述べました栓子浣腸器と同じ樣なもので、之れよりも少し小形で御座いまして、其先端に針が附て居ります、此の器械は醫療器械屋に賣つて居ります、尤も醫者より御借受けになりましても宜しう御座います

藥品は必ず醫者より御受取りにならなければなりません

コップ貳個は石炭酸水及アルコールを容るゝ爲めで御座います

さて是丈けの品が揃ひましたらば先づ第一に注射器を消毒する事が必要で御座います之れには二十倍の石炭酸をコップに注ぎまして此中に注射器を投しましてよく洗滌するので御座います此際注意を要しますのは只だ注射器の外部斗でなく内部にも度々石炭酸を出したり入れたり致さなければなりません充分消毒が出來ましたらば注射器の針の處を外づし藥品の容れてある瓶より藥品を注射器の中に吸ひ取りまして再び注射器の先きに針を箝まして針の方を上にして下から輕く栓子を押しますと注射器に殘つて居りました空氣は皆な追ひ出だされ藥液が一滴二滴針の先きから溢れ出るようになります之れを度として皮下に注射するので御座います

注射を致します皮膚の部分は同じく消毒致さなけねばなりません之れにはコップの中にアルコールを注ぎまして其中に脱脂綿を浸して之れで皮膚を數回强く擦るので御座います尤も皮膚に不潔物が附着し居る場合には先づ石鹸にて此の部分を洗ひ次ぎに石炭酸にて洗ひます方が宜しう御座います

さて以上申しました如くにして萬事揃ひましたらば左の手の拇指と人差指にて皮膚を摘み上げ右の手に注射器を採り速に皮膚の皺襞の下たに斜に注射器の針を差し込み栓子を押して藥品を注入するので御座います

藥液が殘らず這入りましたらば靜かに針を抜き去り其創跡に左の人差指の先端を當てがひまして輕く兩三度揉まして後ち指端を離し綿の小片を當て置きますとも或は又絆創膏の小片を張つて置いても宜しう御座います若し血が澤山出るようで御座いましたらば石炭酸で絞つた綿を當てがひまして其上から繃帶を施して置けば宜しう御座います

注射は通常肩、上膊、の前の方、腕、腹、或は上腿、の前の方に致します

注射し終りましたらば器械は石炭酸にて洗ふて後ち之を燥かして置く事が必要で御座います又注射器の針の中には細い針金を通して置く事を忘れてはなりませぬ

中外彙報

◎山根氏服裝拾遺

山根氏曰く此頃用ゐる婦人の袴は長きに失する嫌ひあり可成ツイ丈けのものを用ゐ色合は必らずしもエビ茶を用ゆるに及ばず衣袴共に同じ色合となし何れも皆日本の反物にて作ることゝなし兒女の帶は後に結び目のある飾りを取り付け前は「ビジヨウ」にて締める工夫となしはきものは履を專用するの考案なりと氏は實踐躬行を重ぜられて氏の令孃には此改良服を常に着用せしめられ次第に改良を圖らるゝ由なるが近頃學校生徒中にも此服裝をなすものありと

◎家庭衛生講習會

同會は成女學校なる水谷直孝嘉悦孝子兩氏の發起に

なり同校の川瀬ドクトル中島得業士の賛成により婦人社會に衛生看病法の智識を與へ婦人をして天職と本分とを全ふせしめ進んで國民衛生の基礎を固からしめんとするにありといふ一家の衛生は婦人の掌理すへき所誠に有益の會合と云ふべし

概則

一、本會を成女學校家庭衛生講習會と稱す一、本會は衛生看護の法全體に關する講習をなすものとす三、會員は婦人に限るものとす四、會期は前後兩期に分ち四月、五月、六月、を前期とし九月、十月、十一月、を後期とす會期中は毎週一回二時間以上の講筵あるものとす五、會員は入會金會費とし別に徴收することなし（講習科目左の如し）

一解剖、生理、衛生、小兒育て方、產前產後、食物及調製法、

一藥品に對する心得、看護に對する心得、看病法、傳染病者心得、應急手當、繃帶のかけかた、醫者に問へ等

講師 ドクトル川瀬元九郎 醫學得業士中島係夫 其他賛成員には山根高田富士川尼子河內の諸氏

講義開始四月二十七日午後二時より毎週開講日火曜日午後二時前期講習期四月廿七日より七月中旬に至る（尙贊成諸家の臨時講演ありといふ）

●恐疫豫防の訓令

本年は傳染病流行の兆ありて殊に赤痢病の如きは今日も尙ほ前年より多き模樣なるより警視廳は各署に對し此際特に豫防法に注意して嚴重なる消毒を行ふべき旨訓令したりと云ふ

●大日本私立衛生會長以下の撰擧

大日本私立衛生會にては曩に會長土方伯辭任に付其後任及び副會長以下の撰擧を擧行したるに會長には長與專齋氏副會長には北里柴三郎氏當撰し尙評議員幹事等は目下取調中なりと云ふ

尙同會に於ては來る十八日午前九時より東京九段偕行社に於て第十九次總會擧行の由にて本會へも案內せられたるが官設鐵道は來十一日より廿五日迄割引を爲すべしといふ

●御斷　先月及本月共本會姓名簿の爲め本欄の如き

も餘白乏しく相成候へとも次號に於てウメ合せ可致候也

大日本婦人衛生會記事

●本會四月例會

四月十三日第二土曜日午後一時より麹町區三年町虎の門なる東京女學館講堂に開く此日や新たに就任せられたる會長鍋島侯爵夫人にも參會せられ其他役員には濱尾副會長鳩山高木羽田穗積岡田松平芳子三浦吉武石川中濱松井子爵夫人をはしめ會員及女學館生徒を併せて二百餘名參會し席定まるや醫學博士栗本東明君の狂犬病に關する演說醫學士佐藤恒久君の腺病質に就ての演說ありて午後四時散會せり

當日左の如く寄附せられたり

會長　鍋島侯爵夫人ゟ

一金拾圓也

◉本會春季懇親會景況

本會春季懇親會は四月初旬に開くべかりしが花時雜沓の季節を避け本月五日第一土曜日を卜し小石川白山御殿なる帝國大學附屬植物園内に於て開きたり此日や曇天なりしとは云へ照りもせず降りもせず温暖躰に適し春來の好時日なりき會員は正午より續々參會せられ午後一時より近衛軍樂隊は池邊芝生の地を占めて演奏をはじめ頗る壯絕なりき二時迄は園内散步温室觀覽の定めなりしかば會員は三々五々芝山に池邊に散步逍遙するあり丘上の「きりしま」は今を盛りと咲き初めて會員を迎ふるが如く樹間紅白を點綴して宛然圖畫の如くなりき午後一時三十分　小松總裁宮殿下御臨場遊ばされたり設けの席にて御休憩二時一同會場へ參集三宅博士は運動の必要を簡短に述べられ次に當日の餘興なる野村連の能狂言二人袴を演じたり滑稽諧謔人をして頤を解かしめたり夫れ

より二十分間の休憩をなし會員に茶菓の接待あり此際總裁殿下には役員の御先導にて溫室へ成らせられ休憩終りて尙一番の狂言あり右終りて一同庭前にむり立ち當日參會の華族女學校高等女學校生徒（何れも會員の子女）の舞踏遊戲あり樂隊の演奏につれて舞ひ遊ぶ樣は恰も胡蝶の翩々たるに似ていと面白くよき運動なりき四時半までは樂隊の演奏もありて會員はゆる／＼半日の清遊を試みられ各々歡を盡して散會せり散會後凡二時間を經て降雨となりしが會員も皆歸宅せられし後のこととて實に好都合なりき、當日來賓には三宅、緒方、高橋、土肥、の諸博士木下、榊、伊澤、朝倉其他の諸氏參會せられ鍋島會長には御歸省中の故を以て參會せられざりしが其他の役員には濱尾副會長をはじめ何れも參會せられて會場の整理を圖られ近來になき盛會なりき

●●當日の寄附左の如し

順次不同

金五圓	濱尾作子
金一圓	鳩山春子
金一圓	高木かう子
金二圓	羽田三緒子
金拾圓	西　升子
金一圓	岡田德子
金二圓	弘田益子
金一圓	宮本樂子
金一圓	子爵夫人　松井正子
金三圓	玉塚と代子

山形支會通信

●四月例會

幹事　川上きん子報

過にし七日第一日曜日午後一時に例會を高等女學校內に開く會長始め副會長にも參會せられ出席者三十名傍聽十數名にて學校醫吉村春柳氏生理につき川上講師には禿髮病のことにつき話されたり尙來五月

總會の打合せ等ありて四時散會せりといふ

宇都宮支會通信

●四月例會

去る四月十四日當市高等女學校に於て第三回通常會開會、出席者五十五名にして渡、青柳、淺田三講師の講話ありしといふ



會報

◎本會會員種類變更（順次不同）

特別會員　舊通常會員　石川さだ子
特別會員　舊通常會員　中村春子
特別會員　舊通常會員　飯島つる子
特別會員　舊通常會員　河木かめ子
特別會員　舊通常會員　佐藤うた子
特別會員　舊通常會員　和田ふく子
特別會員　舊通常會員　清水たけ子
特別會員　舊通常會員　眞野たか子
終身會員　舊通常會員　伊東まき子
終身會員　舊通常會員　岡澤わか子
特別會員　舊通常會員　百瀬きよ子
特別會員　舊通常會員　米木つる子

◎本會入會者

○麹町　清洲とみ子紹介
●麹町區富士見町五ノ十六　通常會員　武笠美以子

○王子村　坂野鈴子紹介
●神田區淡路町二ノ一　通常會員　十文字こと子

○麹町　船曳みき子紹介
●横濱市北方町五百五十五　通常會員　箕輪不二子

○越後　品川いし子紹介
●越後國刈羽郡柏崎町下浦町　特別會員　近藤兼子

○長野　時岡久米子紹介
●長野縣師範學校女子部　通常會員　門奈矩理子

○日本橋區　樋口八重子紹介
●日本橋區蠣殼町二ノ十五　通常會員　鈴村糸子
●同區同町二ノ二十一　通常會員　平田梅子

●淺草區聖天町五十九　通常會員　鳥居貞子
○本郷區　東宮富子紹介
●下谷區竹町二十八　通常會員　三輪靜子
○日本橋區　前田富美子紹介
●北海道小樽區[illegible]宮裡町五　通常會員　高橋いち子
○幹事　三浦敏子紹介
●本所區太平町一ノ一　通常會員　津輕りき子
○芝區　福島つる子紹介
●麴町區永田町二ノ七十三　通常會員　服部鎭子
○大坂　岡田美壽子紹介
●大坂市西區本田一番町廿九　通常會員　深澤ふゞく子
○豐多摩郡　寺本介子紹介
●豐多摩郡淀橋町二百三十七　通常會員　淺井國子
○上海　杉原昌子紹介
●日本橋區龜島町一ノ十八　通常會員　渡邊節子
●下谷區車坂町　通常會員　吉田唐子
○麻布區　門野駿子紹介
●京都市上京區吉田町高等小學校東側　通常會員　新城わか子
○芝區　三浦鉎子紹介
●芝區明舟町十九　通常會員　田村こま子
○日本橋區　樋口八重子紹介

●淺草區山ノ宿町二十五　通常會員　押田鈴子
○赤坂區　眞崎とし子紹介
●麴町區永田町二ノ六十八　通常會員　沖田愛子
○日本橋區　前田富美子紹介
●宮內省御內儀津守好子內　通常會員　吉田てる子
○芝區　佐藤歌子紹介
●芝區櫻田和泉町九　通常會員　佐藤きぬ子
○上海　小田切桂子紹介
●上海武昌路日本郵船會社內　通常會員　林榮子
●上海蘇州路第一號村井兄弟商會內　通常會員　酒井國子
○幹事　鳩山春子紹介
●小石川區原町十三　特別會員　茂木政子
○日本橋區　杉浦糸子紹介
●淺草區橋場町　特別會員男爵夫人　池田貴子
○芝區　園田勤子紹介
●芝區櫻川町二　通常會員　石丸德子
○神田區　大關和子紹介
●本郷區駒込病院看護婦長　通常會員　松本りせ子
●神田區錦町三ノ二東京看護婦會　通常會員　小林靜子
○本郷區　榊梅子紹介
●神田區駿河台井上眼科病院內　特別會員　井上春子

○牛込區　森安かた子紹介
●麴町區平河町二ノ六　通常會員　兒島まさ子
○麴町區　中尾しげ子紹介
●麴町區永樂病院内　通常會員　岸とし子
○幹事　岡田德子紹介
●麴町區中六番町二十四　特別會員　高橋ルイゼ
○麴町區　中澤しゆく子紹介
●麴町區永樂病院内　通常會員　中村へい子
○石見　竹中春子紹介
●石見國濱田町字淺子五十　通常會員　岡數子
○本鄕區　小林さだ子紹介
●日本橋區小網町三丁目　通常會員　山本民子
●本鄕區元町二ノ五十二　通常會員　服部ふじ子
○本鄕區　東宮とみ子紹介
●牛込區矢來町一番地百十八號　通常會員　市川たか子
○事務所申込
●日本橋區旅籠町八　通常會員　鶴岡照子
●牛込區南榎町四十三古賀方　通常會員　佐川いよ子
●高知市金子橋二十八　通常會員　内藤喜千彌子
●牛込區南榎町五十二朝倉方　通常會員　三ヶ島かね子
●麴町區平河町五ノ三十五　通常會員　奥田たか子
●四谷區鮫ヶ橋二ノ三　通常會員　山田信夫

宇都宮支會入會者

○石川とも子紹介
●宇都宮市八日町佐々木病院内　通常會員　大塲みね子
○
●同市中河原町　通常會員　保坂らく子
●同市松ヶ峯町　通常會員　匂坂きく子
○中村やの子紹介
●同市松峯町　通常會員　渡邊吉代子
○高崎うた子紹介
●同市二條町　通常會員　深谷清子
○中島とみ子紹介
●同市杉原町　通常會員　手塚みち子
●同市西河原町赤十字社看護婦養成所　通常會員　小林とら子
●同所　通常會員　小林とみ子
●同所　通常會員　廣瀨ゆう子
○贊成員渡邊貞君紹介
●同市中河原町　通常會員　平井ひさ子
●同所　通常會員　安東よし子
●同所　通常會員　加藤まち子

●同市二條町　通常會員　小林ひさ子
●同市江野町　通常會員　青木たつ子
●同市四條町　通常會員　原　よし子
●同所　通常會員　岩崎はま子
●同市松峯町　通常會員　高橋てい子
●同市西原　通常會員　江田せい子
●同市二條町　通常會員　深田せい子
●同市中河原町　通常會員　渡邊ゆき子
●同市大寛町　通常會員　西村ふじ子
●同所　通常會員　那須しづ子
●同市三條町　通常會員　糸井茂子
●同市二條町　通常會員　若林従子
●同市大寛町　通常會員　長谷川虎子
●同市小幡町　通常會員　三島邦子
●同市三條町　通常會員　原　すが子
●同所　通常會員　平松てい子
●同市川向町　通常會員　渡　ふね子

新潟支會入會者

○幹事　松野なほ子紹介
●新潟市學校町　通常會員　中山芳子

○評議員　長谷川せん子紹介
●同市醫學町　特別會員　越智信子
○會員　宇佐美きち子紹介
●同市赤十字社看護婦養成所　通常會員　關たつ子
○幹事　稲津しん子紹介
●同市東仲通　通常會員　吉住静枝子
○幹事　河上ふさ子紹介
●同市大畑通　通常會員　堤てつを子
○山梨　近藤妙子紹介
●山梨縣北巨摩郡小笠原村五十二　通常會員　進藤妙子
●同所　通常會員　小泉とめ子

◎甲府賛成員長田、武藏、武田、津金諸氏より紹介の入會者多數あるも餘白なきを以て次號に讓る



轉居

會員諸氏御轉居の際は乍御手數事務所宛必ず御一報相願候

●丹後國舞鶴港松嶋八十一番戸ノ二へ　石栗とせ子
●小石川區諏訪町二十九へ　上原豊子

●麴町區一番町七へ　山口靜子
●三重縣津市宇治山田町立病院內へ　安岡やす子
●同所へ　原たけ子
●麴町區山元町一ノ五へ　上野延子
●四谷區坂町百三十へ　古川とめ子
●日本橋區本石町二ノ七へ　田村きよ子
●麻布區飯倉片町六十三へ　東三條綏子
●麻布區我善坊町四十九へ　吉野伸子
●芝區巴町二十四へ　加藤きよ子
●小石川區諏訪町二十五へ　上原よね子
●岩代國信夫郡飯坂町字橫町へ　丹野よし子
●但馬國養父郡伊佐村へ　小出梢子
●清國上海橫濱正金銀行へ　杉原昌子
●赤坂區表町二ノ十七へ　松下貞子
●京橋區築地三ノ十五へ　貝田みき子
●神戸市大開通一ノ十五、二八　大村彌壽子
●信州北佐久郡小諸馬場町へ　平野とし子
●信州埴科郡松代紺屋町へ　國井ちとせ子
●越後國古志郡長岡本町字坂上へ　近藤ちゑ子
●信州小縣郡上田橫町へ　森原まつ子
●麻布區笄町三十八へ　兒島悦子

●千葉縣旭町五八七へ　大島秀人君
●甲府市富士川產婆看護婦養成町へ　武藤秀直君
●長野縣南佐久郡平賀村高等小學校內へ　藤島俊君
●麴町區飯田町一ノ八、看護婦會へ　清水うめ子
●同所へ　細野とよ子
●本所區菊川町一ノ三へ　谷崎直子
●伊勢國宇治山田町立病院內へ　尾崎さい子
●神戸市下山手通四ノ百十二へ　西巻都兒子
●信州諏訪郡上諏訪高等小學校內へ　橫田ゆき子
●小石川區諏訪町四十四、師岡方へ　篠塚たけ子
●北海道石狩國上川鷹栖村字近文へ　伊藤れん子
●伊勢國度會郡山田町古市町立病院內へ　川村もと子



明治三十四年五月八日現在

私立大日本婦人衛生會本支會役員並會員名簿

（第二號）

私立大日本婦人衛生會

此名簿中住所氏名に錯誤遺漏若しくは移動あることを御發見の節は乍御手數本會事務所宛詳細御報告被下度特に御依賴申上候也

明治三十四年五月八日

東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衞生會事務所

大日本婦人衛生會會員姓名（東京府下の部）

す之部（前號の續）

麹町區内幸町一丁目三番地胃腸病院　鈴木つる子
京橋區木挽町六丁目八番地　鈴木はな子
本所區外手町八十二番地の二　須崎とき子
日本橋區久松町二十九番地杉浦方　須田きよト子
本郷區元町二丁目四十八番地博愛看護婦會　須田ふさの子
芝區佐久間町二丁目八番地　須田飢代壽子
本郷區駒込動坂町二十四番地　須田游美子
本所區外手町八十八番地　鈴木まつ子

東京帝國大學附屬第一醫院

大石かう子
木村いわ子
代とめ子
堤かく子
若色芳枝子
香取隆子
石橋はや子
柏田くに子
田坂あや子
山田やゑ子
長要小春子
安邉たか子
佐藤さだ子
澁谷俵子
森もと子
双木せう子
橋本秀子
内田ゆき子
二宮さく子
野島のぶ子
村井ちか子
鈴木すゞ子
赤堀龍江子

日本赤十字社病院

佐藤梢子
石川せう子
池上なを子
石田たりよ子

萩原たけ子
尾上けい子
和田清子
桂幾代子
靈司せつ子
村松ふさ子
藤谷錠子
杉江ひで子
谷田貝古蟬子
山田稚子
末松とめ子
萩田れつ子
渡邊きえ子
金須かめ代子
岡瀬ゆき子
瀧獸子
安岡貞枝子
酒井鶴子
青井てつ子
齋藤せほ子
間宮龜子

麹町回生病院

細井さわ子
那古屋すゞ子
吉田せつ子
須山なを子
細井みゆき子
竹内せん子
渡邊はく子
内山元雄子
日高もさ子
伏田つる子

●御斷●　原稿〆切後入會の方は末尾に掲載致し候也

地方會員姓名

賛成員

栃木縣河内郡姿川大字鶴谷五番地　坪山半馬君
石川縣金澤市石坂與力三十二番地　中村順次君
福井縣武生郡武生病院　篠田宗太郎君
岡山市野田屋町二百二十三番邸　山川春二君
京都市烏丸通上長者町角　ドクトル　佐伯理一郎君
長野縣信州松本六九町　與倉井徳三君
臺灣台北東門街甲三號官舍　松住臨太郎君
青森縣青森市新濱町十四番地　醫學士　竹中正憲君
栃木縣宇都宮病院　醫學士　淺田決君
廣島市字中島本町九十一番地　小泉賀君
神戸市四出町廿四番邸　大島喜馬太君
長崎市引地町九番戸　美島近一郎君
大阪市東區今橋三丁目　安東忠次郎君
神奈川縣藤澤大坂町　永沼軍治君
長野縣諏訪郡上諏訪町如鳩堂　寺田一一郎君
長野縣小縣郡上田町八百五十番地　藤島俊君
山梨縣立病院內　大島秀人君
甲府市代官町二十六番地　長田伊佐君
北海道室蘭病院內　平尾助吉君
大坂市東區伏見町三丁目　谷始太郎君
甲府市元紺屋町　武藏秀直君
甲府市櫻町三町目　武田清四郎君
山梨縣中巨摩郡西條村大字押原第五十一番戸　深澤清賢君
甲府市新町　小林彦太郎君
山梨縣西山梨郡千塚村大字千塚　窪田子良君
甲府市下連雀町第五十三番戸　池田潔君
山梨縣山梨病院　醫學士　高橋良藏君
仝上　加賀則君
甲府市百石町　醫學士　村松鉄三君
甲府市錦町田邊順五郎方　小林卓君
山梨縣北巨摩郡津金村百十九番戸　津金胤利君
臺灣臺北東門街甲三號　松尾宗幽君
山梨縣東八代郡南八代村　加々美純君
仝　圭林村百二十六　高山新松君
仝　下曾根村　長田準平君
臺灣臺北民政局長　後藤新平君

終身會員

山形縣西村山郡新宿村　今井政乃子
山形縣東置賜郡屋代村大字竹森六百二　長谷川伊勢子
大坂市三軒屋町紡績會社　山邊さだ子
愛知縣春日井郡中小田井村　松澤たつ子
神奈川縣大綱山　高島くら子
大和國生駒郡法隆寺前　北畠三枝子
福島縣福島町　油井なか子
筑前國鞍手郡勝野炭坑　安達芳子
攝津國西須磨村須磨寺前　椿高子
清國牛莊橫濱正金銀行支店內　中村久良子

特別會員

北海道函館惠比須町七番地　藤野くら子
大坂市東區常盤町一丁目三番屋敷　福永ちか子
秋田市中龜ノ町五番地　神林久美子
北海道札幌區南二條西三丁目十六番地高橋方　山田いま子
岡山縣兒島郡味野村六十八番邸　野崎陸子
京都市上京塔ノ段櫻木町　和辻愛子
福島縣福島市福島病院內　水野とら子

い ノ 部

秋田縣仙北郡豐澤村巡査駐在所　伊藤てつ子
北豐島郡王子村大字下十條千二百二十六番地　石原坂子
肥前國佐世保村字福田五番戸ノ五號　石田たけ子
和歌山縣海草郡和歌浦町千七十三番地　石井ふみ子
土佐國安藝郡川北村　岩村玉子
安藝國奥莊山田字鄉百六十八番地　石黒よし子
相州大磯　侯爵夫人　伊藤梅子
鳥取縣西伯郡淀江村　岩木利子
岩代國若松市行人町　石山富子
三河國豐橋西八町七番地　石川鈔子
讃岐國多度郡與北村字西原三六二　石川暢子
上野國伊香保町二十番池　石坂きん子
山形縣南村山郡上の山鶏屋町　石黒もと子
横濱市十全病院內　磯部くに子
宮城縣仙台市宮城病院　伊藤れん子
函館區天神町九十三　岩政律子
横濱市十全病院內　飯田とよ子
大坂市北區曾根崎上二丁目七百二十三　池田ふい子

は ノ 部

周防國都濃郡末武南村大字笠戸港四八三　橋本梅子
三重縣津市病院內赤十字社支部養成所　原たけ子
大坂市南區天王寺名ヶ岡狐小路　長谷川さよ子
長野縣小縣郡上田町百十四　長谷川まつ子
駿河國志太郡豐田村字上小土　萩原のぶ子
長野市日本赤十字社支部看護婦養成所　春原まつ子
大坂市東區本町三丁目四田方　林久滿子
大坂市西區新町通三丁目百二十番邸　波多野てる子
熊本市河原町二十五番屋數　橋本多久子
府下荏原郡目黑ビール會社構內　橋本貞津子
相州横須賀中里百六十八番地　橋本貞子
府下荏原郡大崎村下大崎村三二八　服部繁子

に ノ 部

清國上海楊子江正金銀行出張內　西卷郁兒子
熊本縣立病院內　西島みれ子
渡島國檜山郡江差中歌町五十二　西久子
神奈川縣青木元町高木山　丹羽菅子
佐賀縣西松浦郡有田町五七四　西岡安子

ほ ノ 部

北海道函館大町三十七　堀野ふみ子
羽後國飽海郡酒田町本町五丁目　本間ふトへ子
上州高崎衛戍病院內　星野きく子

と ノ 部

千葉縣印旛郡白井村折立　富澤いく子
長野縣女子師範學校　時岡くめ子

ち ノ 部

宇都宮市三條町二十三番地　千葉あや子

をお ノ 部

大坂市西區立賣堀通北六丁目六　岡田みす子
福島縣安達郡本宮町五十二　大内はる子
新潟縣北蒲原郡仲條町百三十四　小野芳榮子
長野縣下伊那郡飯田町　小澤愼子
長崎縣西彼杵郡高島炭坑　大木珠子
神戸市仲山手通四丁目廿三番屋敷　大村やす子
神奈川縣小田原幸町　長田てう子
水戸市上市馬口勞町五ノ八十二　小倉すゑ子
靜岡市小草深町百三十　大島織兒子

大澤ゆき子	大坂市東區本町一丁目四十番邸
大塚きく子	千葉縣東葛飾郡野田村大字上花輪
大日方婦美子	茨城縣眞壁町
折橋あき子	長野縣諏訪郡上諏訪町高島病院內
尾崎さい子	京都市上京區小川通下立賣下る八幡町竹谷方
大木うん子	天鹽國增毛郡町立增毛病院
岡本くま子	府下八王子元横山町七百十六
大迫隆子	大坂市東區四玉造千二百九十三
長田菊子	靜岡市安西町一丁目片桐粂吉方
小山田よね子	函館區大町二十九番地
小田切桂子	清國上海日本領事館

わノ部

渡邊たま子	横濱市元濱一丁目一番地
和久山きそ子	神戸市山本通五丁目七十九番地
渡邊ふさ子	北海道石狩國上川郡鷹栖村
渡邊うら子	埼玉縣北葛飾郡櫻田村字八甫
綿谷謐利子	神戸市下山手通七丁目親和女學校
和田愛子	山形縣酒田高等女學校
和田好枝子	南多摩郡八王子町本町八番地廣瀬方
渡邊千賀子	對馬國嚴原宮谷町九十四番地
渡邊ゑつ子	富山縣高岡市鴨島町三十九

かノ部

鹿兒島きく子	山梨縣東八代郡石和仲町二百九
鹿島いね子	北豐島郡瀧野川村九十六
勝田久米子	赤間關市關後地字田中百八十六
川村もさ子	德島市大手町八丁目百六十一
梶たき子	相州藤澤大坂町網麻問屋
金森さや子	富山縣高岡市小馬出町六十三
桂ゆき子	宮崎縣日本赤十字社支部看護婦養成所
香取千代子	千葉縣匝瑳郡福岡町
河村孝子	相州小田原町万年町四丁目六七七
柏原よし子	信州北安曇郡神城村
河内山とら子	長野縣小縣郡上田町六百二十一
加藤べん子	長野縣小縣郡上田町八百六十八
川合きよ子	北海道室蘭公立病院內
片岡ちか子	栃木縣芳賀郡茂木町二百番地
柏原秋子	南多摩郡八王子本町一ノ八廣瀬方
上條鈴子	長野縣東筑摩郡松本町六十六
筧かめ子	德島縣板野郡川內村大字宮島村

よノ部

横內いわ子	長野縣東筑摩郡島立村百八十五
吉富猶子	長崎縣下縣郡宮谷町四十八番戸
横山しん子	神戸市中山手通六丁目七十二番地
吉川いと子	栃木縣宇都宮病院內
横田ゆき子	長野縣師範學校女子部
横田あき子	府下荏原郡大井村字海邊二四九八

たノ部

丹野よし子	福島縣安達郡二本松町本町
竹中もと子	青森市新濱町十四
田中のぶ子	群馬縣群馬郡箕輪村大字西明屋村百五十五
丹治春子	長崎縣佐世保港大久保上等水前
俵つね子	神奈川縣小田原十字町三ノ六八二
高木操子	岐阜縣岐阜中學校長官舍
竹中春子	島根縣那賀郡濱田町大字淺井四十二
武田政子	筑後國三池郡大牟田町下里長山
田中さだ子	愛知縣名古屋市川原病院內
玉林あや子	長野市東中町
田原しげ子	信州北安曇郡南小谷村字池原
高橋數子	岐阜市上加納縣立療病院內
瀧川みち子	山口縣豐浦郡字後田三百二十一

長野縣小縣郡上田町千三百六十九　田中かね子
周防國都濃郡徳山二番町　辰野たつ子
岐阜市縣立病院內　田口岩子
長野市日本赤十字社支部看護婦養成所　玉井ちとせ子
肥後國臼杵町四十八　田中榮末子
神奈川縣愛甲郡厚木町　竹村すゞ子
長野市縣町日本赤十字社支部　田中しま子
長野市日本赤十字社支部　武野つる子
陸奥國三戸郡八戸町大字馬場川港方　武田りや子
臺灣台南縣鳳山城內鳳山病院內　高木俊子
奈良市上三條町磯田方　伊達梅代子
江田島兵學校官舍　竹內うら子
長野縣東筑摩郡松本町　武居はる子
清國上海日本總領事館內　竹崎さと子
志摩國志摩郡波切村藤兵衛方　高橋いとの子
北多摩郡拜島村字下宿　田中さき子
群馬縣碓氷郡東横野村大字中野谷村　多郁ちう子
北多摩郡拜島村字下宿　田中さき子
北多摩郡中野町五百七十三番地　田中梅子
大坂市東區大川町五十三　竹中眞子
岡山縣英田郡倉敷町二百四十三　竹中かん子
大坂市東區伏見町二ノ一　谷政子
仝　伏見町二ノ四十九　谷眞子
仝　道修町五ノ八　荒井てい子

そノ部

日高國靜內郡下々市村　曾根要子

つノ部

京都市上京區出水町通烏丸西へ入ル中出水町五　鶴田梅子
大坂市東區本町一丁目番外一番　角なつ子
函館區中濱町三番地　辻りか子
函館區大町三十三番地　辻むめ子
南多摩郡八王子新町　露木とよ子

ねノ部

北海道札幌南一條西五丁目二十番地　根岸八重子
山梨縣八代石和仲町二百十一　根岩さもゑ子

なノ部

臺灣台北西門街二丁目臺灣銀行內　長尾せい子
大坂市西區江戸堀北通四丁目三十九　中橋ゑつ子
神奈川縣三浦郡長島村中里七十　中濱辰子
北海道札幌區北三條西七丁目一番地乙三號　中根いね子
岡山縣赤磐郡布都美村大字石上七十一番次一號　長光喜世子
埼玉縣大里郡吉見村　長島ひさ子
栃木縣宇都宮病院內　中村やの子
高知縣土佐郡江ノ口大川筋七十四　中村てる子
神戸市縣立病院內　中村しさ子
徳島市日本赤十字社支部看護婦養成所　永田さよ子

むノ部

山梨縣甲府市元紺屋町　武藏常子
新潟縣刈羽郡岡野町　村山珠雄子
大坂市西區北堀江通五丁目五十番邸　村山ふく子
横須賀湯ヶ谷鎮守府官舍　向山郁子
長崎市出來大工町八番地　棟居みち子
北海道札幌北三條東三丁目三番地　撫養きさ子

うノ部

相州三浦郡逗子九百七十一番地　內田芳子
筑前國鞍手郡勝野炭坑　內野春枝子
長野縣諏訪郡諏訪町高島病院　碓田ふん子
群馬縣日本赤十字社支部　內田せい子

大坂市南區空堀筋北桃谷町東ニ入ル北側　植村妙子
滋賀縣警部長官舍　内村きん子
神奈川縣愛甲郡厚木町　内田かね子
横濱市十全病院内　内田くに子

の ノ 部

高知市鷹匠町　野並三穂子

く ノ 部

廣島市鐵砲屋町六十三番地　日下恒子
大坂市北區東成野田番外八十八　黒川きし子
島根縣松江市茶町十九番地　桑原春子
山形縣西村山郡寒河江町　國井榮江子
高知市西弘小路官舍　久保田ふじ子
伊勢國津市私立病院內　桑名まき子
讃州高松市天神前四十一番戸　黒田てつ子
臺灣澎湖島醫院　日下靜子
信濃國下高井郡中野町字新町　黒岩ぬい子

や ノ 部

相州横須賀白濱稻岡六十八　山口靜子
伊勢國津市病院赤十字社支部養成所　安岡やすゑ子
安房國長狹郡鴨川町前原十三、二號　安田こう子
新潟縣長岡坂上町四十七　山田能文子
南葛飾郡南綾瀬村字下千葉　柳川こま子
伊勢國度會郡大湊町　山中三千代子
筑前國遠賀郡八幡村字高見山　安永榮子
大分縣大分市字荷揚七十一　安田小鹿子
北海道檜山郡館村字須川二番地　山田こう子
大坂市東區南新町一ノ十六番邸　山田たつ子
愛媛縣松山市大字辨天町ロノ一番戸　矢能以爾子
伊勢國四日市市濱田町　山田くま子

横濱市十全病院　山部てつ子
長野市日本赤十字社支部　山岡みつ子
台灣澎湖島々廳官舍　山本さき子
南多摩郡小宮村四中野　山田稻次子
岐阜縣海澤郡東江村字大和田　安田定子
大坂市東區平野町二丁目　安住みや子

ま ノ 部

筑前國嘉穗郡飯塚町炭坑　松田すゑ子
長崎市引地十八番戸　毎熊かめ子
神戸市山本通五丁目七十九　前川てる子
長野市旭町十二　松村ゆきゑ子
大坂市南區天王寺番外七百九十　又木のぶ子
長崎市豐渡町官舍　馬淵よし子
茨城縣猿島郡古河町石町　丸山よし子
三河國岡崎町大字籠田狹須方　松田順子
仙臺市片平町一番地　松田眞都子
横濱市辨天町三ノ五十三　前田佐多子

け ノ 部

山形縣西村山郡白岩町川崎方　劔持千代子

ふ ノ 部

北海道函館船見町五十八　深瀬たか子
朝鮮國京城賛化病院　古城貞子
滋賀縣甲賀郡佐山村大字小佐治　婦人嬌鳳子
山形縣東村山郡天童町　藤山みゑ子
新潟市上大川前通十番町六番戸　藤田りた子
札幌北三條東三丁目三間屋　撫養きさ子

こ ノ 部

靜岡縣庵原郡辻村百六　河野かつ子

新潟縣中蒲原郡横越村　小林かく子
越後國中頸城郡高田字下小町花井方　兒玉さく子
山口縣三田尻毛利邸方　見山すみ子
周防國吉敷山口町　小橋秀子
長野市日本赤十字社支部看護婦養成所　近藤ちゑ子
遠江國小笠郡掛川町報徳社　駒塚元子
長野縣東筑摩郡松本町百四十二　小平登江子
岡山市内山下矢吹方　小出梢子
栃木縣足利町四の宮　近藤てい子

ゑえノ部

北多摩郡拜島村字上宿際淵方　榎本園子

てノ部

荏原郡大井村鹿島谷三千百四十四　手塚ふく子
相州三浦郡中西浦村佐島　照木みや子
豐多摩郡中野村五百七十三　寺本谷子

あノ部

長野市市立長野病院赤十字社看護婦養成所　赤澤きくの子
福島縣福島町字上町十三　荒川梅子
肥前國佐世保仲通又五番戸　淺野かま子
羽後國仙北郡角館町小人町五　阿部なか子
福岡縣遠賀郡八幡村製鐵所構内　阿部敬子
栃木縣宇都宮病院内　淺田とみ子
豐前國門司市丸山帝國商業銀行社宅　麻生富久子
北多摩郡拜島村字上宿際淵方　秋山利子
大坂市今橋二丁目二十五　安東新子

さノ部

筑前國鞍手郡勝野炭坑　佐藤澄子
愛知縣丹羽郡太田村　佐野英子
山形縣西村山郡出居村大字吉川　笹島やゑ子
熊本市京町本町四十二　佐藤粲子
但馬國出石町伊木町二　櫻井和香子
長野市日本赤十字社支部　佐野久子
府下北豐島郡王子村千二百八十六　坂野鈴子
横濱市十全病院内　齋田ちよう子
宮城縣角田東町　佐竹美き子
宮城縣角田中町三百七十四　佐藤たま子

きノ部

大坂市東區船越町一丁目百十八　北代こう子
安藝國吳和庄町二千百三十八　岸美興子

ゆノ部

横濱市尾上町五ノ七十七横田方　湯淺正代子
奈良縣磯城郡田原本町字魚町　由井冬子
相州横須賀向山官舍川第十九號　湯地照子

みノ部

金澤市十三番町中丁四番地　宮橋まさ子
上野國前橋市細ヶ沢町二番地　水野けい子
神戸中山手通り二ノ三十五　三田あさ子
筑前嘉穗郡綠松村鯰田炭坑　三浦こま子
上野國新田郡大島村　三浦ふみ子
但馬國養父郡口大屋村　三方京子
仙臺市東三番町四十　三島好子
台灣台北縣廳内官舍甲第一號二等　宮木定子
山口縣山口高等女學校　溝淵こまゑ子
千葉縣印旛郡布鎌村小川方　宮本いく子

しノ部

栃木縣下都賀郡栃木町　白澤彌與司子

對島國下縣郡宮谷町九十　清水すみ江子
新潟縣北蒲原郡金塚村大字金子　白勢つて子
相州横須賀町中里七十一　清水富喜子
岐阜縣山形郡保戸島村側島　篠田しづ江子
越後國刈羽郡柏崎北角村字四ッ谷　品川いし子
山形縣西村山郡白岩村　白田みな子
神奈川縣愛甲郡厚木町　澁谷さい子
北海道室蘭港本町官舎　白川よう子
神戸市山手四丁目一番　床次きよ子
北多摩郡拜島村上宿　島　幸子
對島國嚴原宮谷町百五　下田けい子
福井縣遠敷郡雲濱村字西津二十　鹽濱琴子
對馬國嚴原中村町十五　澁江伊勢子
對馬國嚴原宮谷町六十六　鹿野とめ子

ひノ部

京都下鴨村四十四番地　久原あき子
茨城縣眞壁郡下妻町　秀島千代子
横濱市元濱町四丁目　日能てる子
山城國紀伊郡深草村大字福稻　氷室長子
長野市日本赤十字社支部　平野とし子
新潟縣北蒲原郡中條町五百三十　樋口つや子
熊本市藪の內町十五　秀島はつ子
北海道室蘭札幌通二番地　姥子那珂子

もノ部

横濱市福富町二丁目六十七　本島鏡子
伊豫國道後郡三津濱村大字新町四十九　守屋やす子

せノ部

奈良市北室町七番邸ノ二　關野小枝子
大阪市糸屋町一丁目二十五番邸　仙田花子

越後國中蒲原郡茨曾根村　關根熊彌君

すノ部

奈良縣添上郡佐保村字法蓮第八番地　菅ゆき子
千葉縣赤十字社千葉支部看護婦養成所　鈴木くら子
山形縣酒田町上臺町　鈴木よし子
茨城縣猿島郡古河町字古河　杉原昌子
筑前國鞍手郡三菱新入炭坑　杉本千世子
臺灣台北病院內　鈴木てる子
美濃國安八郡神戸町　杉山千代子
南葛飾郡寺島村元寺島千七百五十八　須藤鳳子

奈良赤十字社看護婦養成所

奈良赤十字社看護婦養成所　岩井千代子
仝　武田亀野子
仝　堀江ふみ子
仝　音成ちやう子
仝　小川たね子
仝　小川きよ子
仝　山名小政子
仝　佐武しな子
仝　吉岡しげの子

甲府市ノ部

特別會員

甲府市桜近習町眼科病院　平山つる子
山梨縣北巨摩郡若神子村　中田たけ子
甲府市愛宕町百一　村田ちほ子
仝　市常盤町二十二　加藤由起子
山梨縣中巨摩郡三町村六十四　中村きん子
甲府市白木町　三神てる子

通常會員

甲府市櫻町三丁目　石渡きく子
仝　市元紺屋町五　武田うのゑ子
仝　市湯田五十三　梶原利勢子
山梨縣南巨摩郡飯富村三　土橋介野子
甲府市櫻町三丁目　佐藤よし子
仝　市稻門五十四　佐藤雅子
仝　市字新青沼五十二　佐々木さもゑ子
山梨縣中巨摩郡西條村　三浦はるい子
仝　小井川村八十二　向山糸子
仝　北巨摩郡若神子村　玉川こま子
甲府市新柳町　內藤よし子
仝　市彌生町三　藤井きよ子
山梨縣北巨摩郡若神子村二百八　坂本すみ子
甲府市彌生町二　荻原とも子
仝　市代官町二十六　長田てつの子
仝　市櫻町　樋太きん子
仝　市深町六十二　平井ろい子
仝　市柳町二百二十　田村よれ子
仝　市竪町十二　穴水うめし子
仝　市新紺屋町四十五　原田とみ子
仝　市愛宕町百一　永谷さみ子
仝　市錦町八十四　小林ひろ子
山梨縣西山梨郡千塚村　小幡とくの子
仝　內藤きよの子
仝　里垣村善光寺横町駐在所　西村とし子
仝　千塚村　窪田ろい子
甲府市稻門町二十六　米山小せん子
仝　市錦町二十二　三谷まさ子
山梨縣西山梨郡千塚村　須藤みさを子
甲府市紅梅町五十六　進藤つろ子

仝　市新青沼町四十七　小田切滿乃子
山梨縣西村山郡相川村七十二　深澤まつ子
甲府市相生町四十四　乙黑武子
山梨縣病院內日本赤十字社支部看護婦養成所　吉田松代子
仝　稻村みつ子
仝　河野久和榮子
仝　小尾あさ子
山梨縣中巨摩郡小井川村　樋口まさ江子
仝　西山梨郡大宮村酒山宮組　望月りやう子
甲府市横近習町　新藤ふさ子
仝　市竪近習町八十五　守屋五男三
仝　市若松町佐久間方　小林しげ子
仝　市春日町百四十四　渡邊文子
仝　市新青沼　石井武志子
仝　市富士川町十五　澤田いれ子
仝　市紅梅町　小宮山たれ子
仝　市柳町三丁目　直江はな子
仝　市新紺屋町　千葉あき子
山梨縣西山梨郡千塚村大字千塚　窪田とり子
仝　北巨摩郡若神子村　成島たま子
甲府市百石町　志賀りか子
仝　市新紺屋町　野澤とのこ子
山梨縣東八代郡下曾根村　山月たかお子
仝　藤野村　中澤つろ子
甲府市若松町　今井しん子
山梨縣東八代郡南八代村　加々美はつ子
仝　圭林村百二十六　高山くら子
仝　下曾根村　長田れい子
仝　西山梨郡里垣村　在明せい子
仝　日向ひさ子

臺灣會員

臺灣台北東門街丙一號六室 山田よね子
仝 丙一號五室 川村よせ子
仝 丙一號七室 田浦絶子
仝 丙四號八室 足達くに子
仝 城南門街外丁三號十室 平田まさ子
仝 東門街 乙三號七室 小松はつ子
仝 乙四號三室 杉山幹子
仝 城南門街外丁三號九室 佐藤喜枝子
仝 東門街 乙四號六室 赤尾ひさ子
仝 乙四號七室 青木いろ子
臺灣台北北門街郵便局官舍十二號室 岩崎くに子
仝 東門街土地調査局官舍二ノ五號 熊城照枝子
仝 土地調査局官舍八ノ一號 四倉ゆう子
仝 土地調査局官舍 山田しげき子
仝 東門街乙四號九室 河村初子
仝 乙三號五室 岩瀬すみ子
仝 土地調査局官舍イノ一室 森田みつ子
仝 ハノ十室 廣瀬しげ子
仝 城内東門街四丁目丙八號四室 小出歌子
仝 丙一號五室田村方 萩野まさえ子
仝 台北縣警察部警察廿八號官舍 原口まつ子
仝 城内東門街四丁目八番戸 田口みつ子

新潟支會ノ部

贊成員

池原審造君
仝 長谷川一銓君
仝 若杉喜三郎君
仝 田代亮助君

贊成員

新潟産科院長 高橋辰五郎君
仝 長井千尋君
仝 中村勇三郎君
仝 岡藤三君
仝 岡部玄四郎君
仝 澁川正男君

終身會員

新潟市上大川前通り 鍵富せつ子
仝 學校町二 鍵富孝子
仝 上大川前通り 八木松代子
仝 東仲通り 古関初瀬子

特別會員

新潟市上旭町 稲津しん子
仝 長谷川せん子
仝 丹羽まさ子
仝 沼野呂江子
仝 奥野すへ子
仝 加藤ひな子
仝 松野なを子
仝 小柴きく子
仝 坂本いち子
仝 澁川たま子
仝 森りく子
仝 和田れん子
仝 和田くに子
仝 神尾つや子
仝 谷みつ子
仝 プラチンク．ラ
仝 湯原しゆん子
仝 醫學校町 横尾ふさ子

住所	氏名
仝	高橋なみ子
仝	田村みち子
仝	安原なみ子
仝寄居町	池原きん子
仝	加藤かう子
仝	柏田ます子
仝	高橋たゞ子
仝	土田とめじ子
仝大畑通	岩瀬きん子
仝	吉田きその子
仝大畑通	吉井さく子
仝	坂口あや子
仝西堀通	長谷川やす子
仝	長谷川しゆん子
仝	高橋さだ子
仝	中村きん子
仝古町通	山崎いち子
仝	荒川てい子
仝東堀通	安宅ふじ子
仝	齋藤かう子
仝本町通	田代てふ子
仝	中村しげ子
仝	佐藤みち子
仝大川前通	若杉きく子
仝	鍵富さき子
仝	竹山れつ子
仝	小山せい子
仝	鈴木さめ子
仝白山浦町	鍵富かう子
仝礎町	湖みれ子
仝赤十字社看護婦養成所内	宇佐美きち子
仝	星野よし子

通常會員

住所	氏名
新潟市上旭町	岩淵せい子
仝	今井すみ子
仝	羽田ちか子
仝	馬場まさ子
仝	岡田しげ子
仝	涌井さよ子
仝	河上ふさ子
仝	吉村きよ子
仝	橋よれ子
仝	都築すが子
仝	長野むら子
仝	青木しづ子
仝	宮かう子
仝	篠原きし子
仝	清水わか子
仝下旭町	稲田きく子
仝	金坂ひで子
仝	吉田きよ子
仝	山本和喜子
仝	木村ぎん子
仝學校町	千谷さよ子
仝	小串ふじ子
仝	渡邊くら子
仝	甲斐きく子
仝	高田せん子
仝	内山きやう子
仝	山田はろ子
仝	宮坂とさ子
仝	水島川きやう子
仝上大川前通	富岡つわ子

住所	氏名
仝	小澤ぬよ子
仝	亀倉かれ子
仝	神林むつ子
仝	鍵富いつ子
仝	横山かう子
仝	高橋てい子
仝	中山とう子
仝	松浦ひさ子
仝	松浦とう子
仝	江部貞子
仝	會津やす子
仝	青山つれ子
仝	齋藤きい子
仝白山浦町	塚野まさ子
仝	内部より子
仝	町田こと子
仝	小塚もさ子
仝	近藤よれ子
仝	三宅ふで子
仝東仲通	梅木しづ子
仝	小布施すみ子
仝大畑通	行形いき子
仝	長谷川うた子
仝	丹羽みす子
仝	金井そめ子
仝	吉井さら子
仝西堀通	石井しま子
仝	石高いし子
仝	石みほ子
仝	吉田きん子
仝	長井さと子
仝	中村ゆう子

住所	氏名
仝	小川むつ子
仝	大竹八重子
仝	工藤せい子
仝	松本きと子
仝	齋藤たま子
仝	清水とよ子
仝古町通	片桐くに子
仝	大井榮野子
仝	佐藤しん子
仝	島木とき子
仝東堀通	齋藤らく子
仝	大野井ゆきの子
仝本町通	大橋とし子
仝	大塚ます子
仝	田邊りん子
仝	能勢ます子
仝	白勢花子
仝	志賀ちへ子
仝寄居町	金庭とも子
仝	清宮たか子
仝住吉町	清水てい子
仝	鈴木つれ子
仝礎町	清水くり子
仝秣川岸	倉田きく子
仝日和山	阿部きく子
仝醫學校町	佐竹あい子
仝月町	木下てつ子
新發田四ノ町	林千代子
中蒲原郡沼垂町	野崎のぶ子
南蒲原郡井栗村	松川あやの子
埼玉縣浦和町	小室房榮子
赤十字社看護婦養成所内	高久きん子

學生ノ部

仝　赤十字社看護婦養成所内　関たつ子
仝　産婆學校内　木村けい子
仝　霜島一枝子
仝　榎並よゑ子
仝　新潟醫院内　八木よしの子
仝　高橋醫院内　西村みや子
仝　本町通　野田のぶ子

千葉支會

千葉縣千葉町寒川九一九　高梨みつ子
仝　佐倉町　小川なみ子
仝　千葉町吾妻町　太田ちよ子
仝　通町　淺井けい子
仝　本町　飛田てろ子
仝　長尾ゑん子
仝　佐倉町順天堂病院内　佐藤はつ子
仝　香取郡古城村萬力　清水いせ子
仝　印旛郡富村七　粟飯原ふゆ子
北海道札幌北一條西六丁目二　小林くみ子
千葉縣千葉町吾妻町　紅谷ゑつ子
仝　本町　江川かれ子
仝　吾妻町　鈴木たい子
仝　鈴木みよ子
仝　横町　柴田ひさ子
仝　旭町　川崎ゆう子
仝　新田　鈴木とよ子
仝　市場　中西つろ子
仝　岩崎としこ
仝　旭町　峯島てい子
小池もと子

日本赤十字社千葉支部準備看護婦養成所内　板垣芳子
仝　平井もと子
仝　川島しづ子
仝　手代木奕雪子
池田いさ子

山形支會

特別會員

山形市新築二百五十九　川上きん子
仝　二百七十五　國井よしを子
仝　旅籠町寒河江二百三十五　沖野りう子
仝　仝町新築　関根たか子
仝　西通二百六十七　西野きぬ子
仝　六日町百九十四　加藤やす子
仝　新築西通　葛たみ子
仝　小田切とわ子
仝　香澄町　安村かつ子
仝　六日町字寒河江町千二十五　加藤隆子
仝　新築　関村子
仝　檜物町　北島もと子
仝　旅籠町字雁島　牧山そか子
仝　六日町字寒河江町　亀山里子

通常會員

仝　旅籠町六百三十　北川さだ子
仝　新築西通　山田すい子
仝　香澄町　畔柳きぬ子
仝　旅籠町五百七十一　後藤まき子
仝　日本赤十字社支部看護婦養成所　小野まさ子
仝　相馬さだ子
仝　中村さが子

仝	丹　とみ子
仝	諏訪　みよゑ子
仝	沼澤　すゑ子
仝	鈴木　むめ子
仝	眞木　みどり子
仝　香澄町字木ノ實小路	池田　ちよめ子
仝　日本赤十字社支部看護婦養成所	阿部　かれ子
仝　旅籠町縣廳隣	中原　きゑ子
仝　旅籠町新築二百二十五	關原　鶴子
仝　四通三百五十	菅井　久子
仝　二百七十八古川方	沼宮内　たみ子
仝　長源寺町照井方	佐藤　ふみ子
仝　七日町	武田　うめ子
仝　香澄町横町字木ノ實小路十九	大森　よつ子
仝　新築	横山　千代子
仝　旅籠町大字下町	吉野　ふゆ子
仝	樋口　さだ子
仝　旅籠町	生沼　ふぢ子
仝　新築西通	杉江　まつ子
仝　七日町	草刈　こう子
仝　香澄町庚申堂	池田　とく子
仝　香澄町	石川　せん子
仝	六村　やす子
仝　新築三百五十一	塚田　きぬ子
仝	大山　はる子
仝　旅籠町六百四十五	木村　つれ子
仝　東村山郡山邊町	垂石　おん子
仝　鍄口百八	溝尾　まさ子
仝　香澄町	吉村　こま子
仝　旅籠町四百六	渥美　都胤子
仝　七日町字長源寺町	岡井　さだ子
仝　横町口	石川　とし子

仝　東村山郡山邊町	遠山　てろ子
仝　新築	奈良村　きく子
仝　新築三島通	佐藤　きみの子
仝　東村山郡山邊村	樫木　榮子
仝　香澄町小鍄	木目　せい子
仝	富澤　むめ子
仝　香澄町木ノ實小路	丹生　きく子
仝　上の山湯町	高内　しげ子
仝	栗山　きよ子
仝	高村　ふさ子
仝　香澄町字鍄二百十五	吉川　たけ子
	關原　かめゐ子

宇都宮支會

栃木縣宇都宮市西塙田町	溝部　いく子
仝	權山　ふく子
仝	矢板　はま子
仝	五十嵐　けい子
仝	天野　柳子
仝	水本　かれ子
仝	高崎　うた子
仝	稲葉　みつ子
仝　東塙田町	久保　ため子
仝　小幡町	石井　せい子
仝　松ヶ峯三	中山　きく子
仝　中河原町	笠原　小常子
仝　江野町	中里　安子
仝　大寛町	大久保　つろ子
仝　二條町	長野　どゆん子
仝　日本赤十字社栃木支部看護婦養成所	中島　さみ子
仝　宇都宮病院	水野　つれ子
仝　江野町	神谷　しか子

仝　宇都宮病院内　佐々木としゑ子
仝　宇都宮市女河原町看護婦養成所　平野すわ子
仝　齋藤あさ子
仝　廣瀨ゆう子
仝　上野たつ子
仝　糸井のぶ子
仝　村松たつ子
仝　松枝きよ子
仝　傳馬町　前島なを子
仝　塙田町　原ちせ子
仝　新石町　佐久間みの子
仝　三條町　石田つれ子
仝　傳馬町　行森保司
仝　高等女學校　門脇せつ子
仝　太田まつ子
仝　安藤かれ子
仝　二條町　鈴木よし子
仝　大寛町　田中幸子
栃木縣芳賀郡祖母ヶ井村　町田まち子
仝　宇都宮市馬場町四十四　戸山さく子
仝　三條町二十三　千葉あや子
仝　小幡町　堀よれ子
仝　德永たき子
仝　二條町　内田きし子
仝　松ケ峯町　和田滿壽子
仝　杉原町　田野邊ふじ子
仝　四條町　小堀うめ子

追加之部（四月中入會者）

特別會員の部

本所區太平町一丁目一番地　津輕りき子
小石川區原町十三番地　茂木政子
淺草區橋場町　男爵夫人　池田覺子
神田區駿河臺井上眼科病院内　井上春子
越後刈羽郡柏崎村下油町近藤方　近藤[illegible]子
麹町區中六番町二十四　高橋ルイゼ

通常會員の部

牛込區岩戸町三、廣瀨方　關野秀子
麹町區下二番町同生病院内　原つれ子
芝區愛宕町北里病院内　笠原千代子
仝　所　千葉みよ子
小石川區關口臺町子爵岡部邸　藤澤さつき子
麹町區富士見町五丁目十六　武笠美以子
神田區淡路町一丁目一　十文字こと子
日本橋區旅籠町八　鶴岡照子
日本橋區蛎殻町二丁目十五　鈴木糸子
日本橋區蛎殻町二丁目二十一　平山梅子
淺草區聖天町五十九　鳥居貞子
下谷區竹町二十六　三輪靜子
麹町區永田町三丁目七十三　服部鎭子
日本橋區龜島町一丁目十八　渡邊節子
下谷區車坂町　吉田康子
芝區明舟町十九　田村こま子
牛込區南榎町四十三　佐田いよ子
淺草區山ノ宿町二十五　押田鈴子
麹町區永田町二丁目六十八　沖田愛子
宮内省御内儀津守好子内　吉田てゐ子

芝區櫻田和泉町九	佐藤きぬ子
芝區櫻川町二	石丸德子
本郷區駒込病院看護婦長	松本りせ子
神田區錦町三丁目二	小林靜子
牛込區南榎町五十二	三ヶ島かれ子
麹町區平河町二丁目六	兒島まさ子
麹町區永樂病院内	岸田とし子
麹町區平河町五丁目三十五	奥田たか子
麹町區永樂病院内	中村へい子
四谷區鮫ヶ橋二丁目三	山田信夫
日本橋區小網町三丁目	山本たみ子
本郷區元町二丁目五十二	服部ふじ子
牛込區矢來町一番地百十八號	市川たか子
長崎縣西彼杵郡高瀬村百六十	弘生二非子
山梨縣北巨摩郡若神子村字穴平	畝田うめ子
山梨縣北巨摩郡増富村三百三十三	小尾しう子
信州諏訪郡上諏訪桑原町九百八	武居すほ子
上野國新田郡太田町五丁目百四	矢澤秀子
三重縣津市宇治山田町立病院内	林さう子
山口縣阿武郡須佐村	大岡茂登子
横濱市北方町五百五十五	簑輪不二子
長野縣師範學校女子部	門奈矩理子
北海道小樽區手宮裡町五	高橋いち子
大坂市西區本田一番町二十九	深澤ふく子
豊多摩郡淀橋町二百三十七	淺井園子
京都市上京區吉田町	新城わか子
上海武昌路日本郵船會社内	林榮子
上海蘇州路第一號村井兄弟商會内	酒井園子
高知市金子橋二十八	内藤喜千彌子
石見國濱田町字淺井千五十	岡數子
山梨縣北巨摩郡小笠原村五十二	進藤妙子
仝所	小泉とめ子

宇都宮支會の部

宇都宮八日町佐々木病院内	大崎みね子
仝中河原町	保坂らく子
仝松ヶ峯	白坂きく子
仝所	渡邊吉代子
仝二條町	深谷清子
仝杉原町	手塚みち子
仝中河原町赤十字字看護婦養成所	小林とら子
仝所	小林さみ子
仝所	廣瀬ゆう子
仝中河原町	平井ひさ子
仝所	安東よし子
仝所	加藤まち子
仝二條町	小林ひさ子
仝江野町	青木たつ子
仝四條町	原よし子
仝所	岩崎はま子
仝松ヶ峯	高橋てい子
仝西原	江田せい子
仝二條町	淺田せい子
仝中河原町	渡邊ゆき子
仝大寛町	四村ふじ子
仝所	那須しづ子
仝三條町	糸井茂子
仝二條町	若林從子
仝大寛町	長谷川虎子
仝小幡町	三島邦子
仝三條町	原すが子
仝所	平松てい子
仝川向町	渡ふれ子

總會員　千七百十九人

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條　當支會の會費は左の六種とす

終身會員　一時限り出金貳拾圓
特別會員　毎月　金參拾錢
通常會員　仝　金貳拾錢
支會員　甲毎月　金拾錢
　　　　乙仝　金五錢

第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す

第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす

第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く
會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし

第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す

第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし
會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし

第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

新潟支會

事務所新潟市旭町一番町十番戶
河上フサ子方

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す

第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く
會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す
役員の任期は一ヶ年とす

第三條　本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす

第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし
本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第五條　本會々費は會計幹事に納むべし
但し六ヶ月分又は一ヶ年分
新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし

第六條　服裝は精誠質素なるを要す
上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

山形支會

事務所山形市檜物町川上方

婦人衛生雑誌第百三十八號
明治卅四年五月十五日發行毎月一回十五日發行

●大日本婦人衛生會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究せしめ衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり

一會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には黄菊若くは白菊の會員章を交付す

一會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

一終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす●男子賛成員亦同じ

一男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特に賛成員たることを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし

一會員は本會に於て毎月發行する雑誌を無料にて受ることを得

一退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戻せず

一集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす
但毎會學識經驗ある者に衛生上の講義演説談話を囑託し會員をして随意聽講せしむるものとす

一會員は家族の婦女若くは知已の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を陪聽せしむることを得（勤めて衣服は質素たるべきこと）

一講義演説等は男子の傍聽を禁ず但賛成員若くは會員縁故ある男子は此限にあらずと雖も賛成員の外は本會の都合に由り臨時謝絶することあるべし

●支會

一地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會へ納付することを止め支會の規定に依るものとす尚詳細は本會事務所へ承合すべし

御入會の注意

新入會の際は三ヶ月以上の會費と相當徽章代通常會員章（正銀五十錢）又は（銀メッキ製拾五錢）終身及特別會員は銀鍍金章（金一圓）を添へ必らず前納にて申込まるへし然らざれは雑誌發送致し兼候但し東京府下に限り毎月會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也

追て支會々員は支會へ會費納めらるべきことゝす

一會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又通運便何にても差支なし

一會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に郵券三錢を添へらるべし
但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割増とす

一轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料	
一行	十錢
一頁	參圓
總て前金	

本誌定價一部拾錢　毎月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衛生會
東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中徳三郎
東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　戸上義章
東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舎第一工塲

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可（明治三十一年二月二十八日内務省許可）